

横浜市民の危機管理アンケート 調査結果について

横浜市では、今後の事業の見直しなどに活用するため、市民の皆さまの日頃からの「自助」・「共助」の意識や取組状況を把握する「横浜市民の危機管理アンケート調査」を実施しました。

調査結果がとりまとめられましたので、ご報告いたします。

1 調査の概要

調査対象	横浜市内に居住する 15 歳以上の方 10,000 人（外国人を含む）
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	調査票の郵送（配布・回収）による自記入方式
調査期間	平成 27 年 6 月 23 日～7 月 15 日
回収結果	有効回答者数 3,217 人、有効回答率 32.2%

2 調査結果のポイント

大地震について不安を感じていると答えた人が多い反面、自分の命は自分で守るための対策の認知度や取組状況が低いなど、意識と対策のギャップが見られました。

また、ハザードマップの認知度や避難行動についての認識が低いという結果になりました。

さらに、風水害時に避難するきっかけとして、自主的に判断して避難すると答えた人は少なく、行政からの働きかけがあってから避難しようとする人が多いことがわかりました。

(1) 「自助」「共助」の認知度【→P1】

「自助」「共助」について、「聞いたこともあるし、意味も知っている」人が 3 割を下回るなど低い結果に留まっています。

(2) 大地震への意識と対策【→P2～5】

約 9 割の人が「大地震が近く起きるのではないか」と不安を感じています。

一方で、家庭での防災対策として、

- ・家具を「固定している（「固定が必要な家具がない」も含む）」人が 約 6 割
- ・食料・飲料水を「3 日以上」備蓄している人が 約 4 割
- ・昭和 56 年 5 月以前（新耐震基準以前）に建築された建物に住んでいる人のうち、「耐震化している（「耐震診断の結果、安全と判定された」を含む）」人が 約 2 割

と低い結果に留まっています。

(3) 研修や訓練への参加【→P6】

防災・減災に関する研修や訓練に「何も参加していない」人が 5 割を超えました。

(4) 各種広報物の認知度【→P7～9】

全戸配布をしたにも関わらず、減災パンフレット「わが家の地震対策」の認知度は 約 4 割、「土砂災害ハザードマップ」の認知度は 約 3 割と低いことがわかりました。その他のハザードマップの認知度についても、5 割を下回るなど低い結果に留まっています。

(5) 風水害時の避難行動【→P10】

豪雨が発生した場合、避難するきっかけとして、いずれも公助である「避難準備情報」が発令されてはじめて避難すると答えた人が 約 1 割、「避難勧告」で避難すると答えた人が 約 2 割、「避難指示」で避難すると答えた人が 約 2 割という結果になりました。

3 調査結果の総括

調査結果をみると、市民の皆様が漠然と「災害に対する不安」は抱えているものの、自分の命は自分で守るために備えるといった行動に必ずしもつながっていないことが分かりました。

災害から命を守るためには、行政からの働きかけだけではなく、市民の皆様一人ひとりが「自分が災害に遭う」といった切迫感や危機意識を持ち、自主的に備え、行動することが重要となります。

本調査結果を踏まえ、市民の皆様の「自助」「共助」の取組について、引き続き支援を行っていきます。特に「自助」の中でも命を守る取組については、粘り強く啓発を行っていきます。

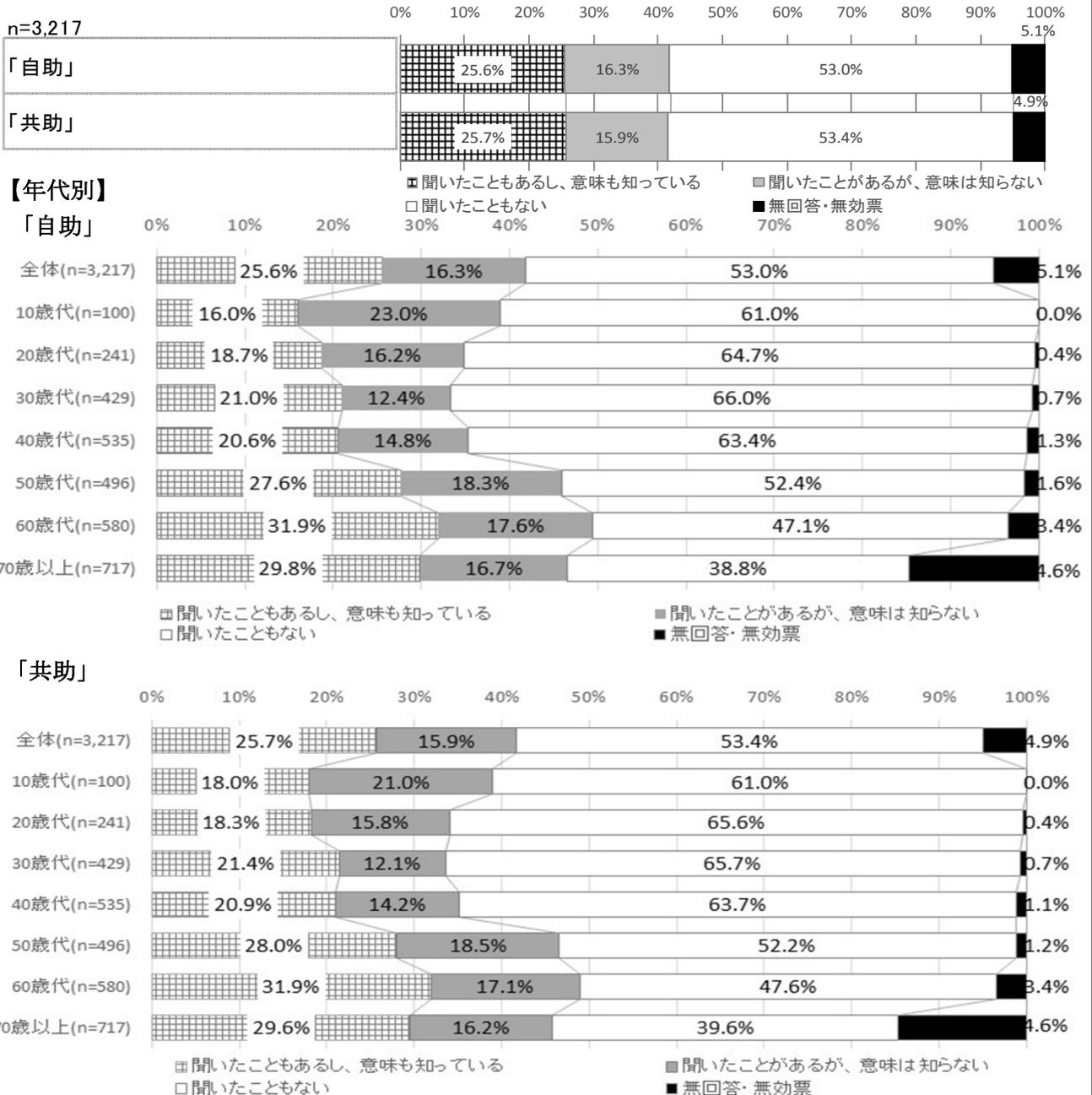
★調査結果については、ホームページに掲載しています。

(掲載アドレス <http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kikikanri/>)

調査結果のポイント

ポイント1 (問 17)
「自助」「共助」の認知度「聞いたこともあるし、意味も知っている」が
約3割を下回る

「自助」「共助」ともに「聞いたこともない」が約53%となっており、「聞いたこともあるし、意味も知っている」が約25%と低いことが分かりました。年代別にみると、「自助」「共助」ともに「聞いたこともない」が10歳代から40歳代について60%を超えました。



◎ 「自助」「共助」とは・・・

自助・・・「自らの身を守り、備える」

共助・・・「地域での助け合い」

という意味です。「自分の命は、自分で守る」ということを普段から意識し、災害に日頃から備えることが大切です。

ポイント2

(問1、5、5-1、6、6-1、9、9-1)

大地震への意識と対策

大地震への「不安を感じている」は約9割

一方で、対策として、

・家具を「固定をしている(「固定が必要な家具がない」も含む)」が約6割

・「3日分」以上備蓄している人が約4割

・「昭和56年5月以前(新耐震基準以前)に建築された建物のうち、耐震化している(「耐震診断の結果、安全と判定された」を含む)」が約2割

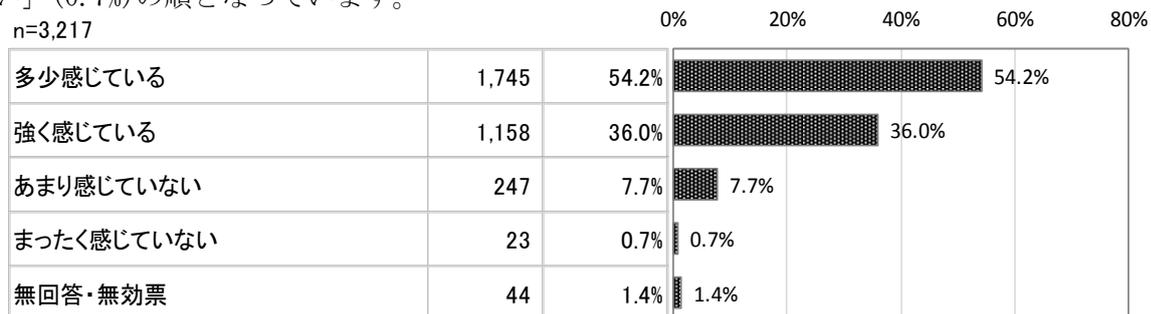
90.2%の人が「大地震が近く起きるのではないか」と不安を感じているにも関わらず、家庭での防災対策として、①家具を「固定している(「固定が必要な家具がない」も含む)」が58.3%、②食料・飲料水を「3日以上」備蓄しているは38.8%、③「昭和56年5月以前(新耐震基準以前)に建築された建物」に住んでいる人のうち、「耐震化している(「耐震診断の結果、安全と判定された」を含む)」が19.3%と低い結果に留まっています。

意識と対策にギャップがあります。普段できるところから備えていくことが大切です。

●大地震への不安(問1)

大地震への不安等は「多少感じている」(54.2%)が最も多く、次点の「強く感じている」(36.0%)と合わせると9割を超えています。次いで「あまり感じていない」(7.7%)、「まったく感じていない」(0.7%)の順となっています。

n=3,217



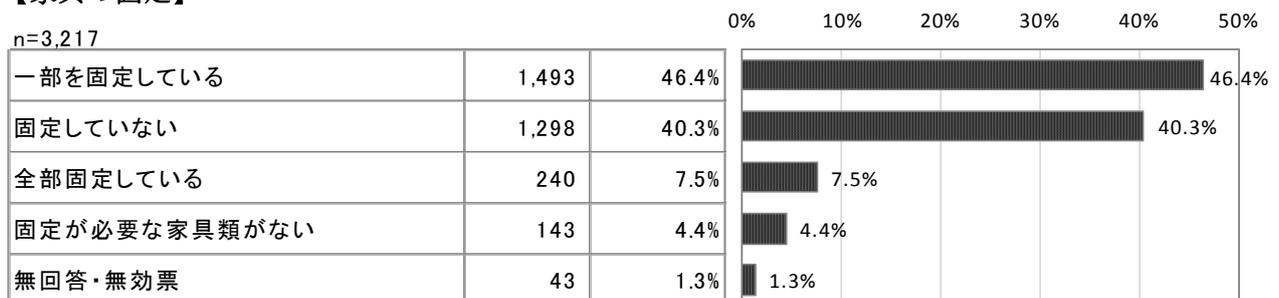
●家具の固定(問6、6-1) <⇒P5「室内を安全にしましょう。」>

「一部を固定している」と答えた人が46.4%と最も多く、「全部固定している」(7.5%)、「固定が必要な家具がない」(4.4%)と合わせると58.3%となりました。一方で「固定していない」(40.3%)で次点となっています。

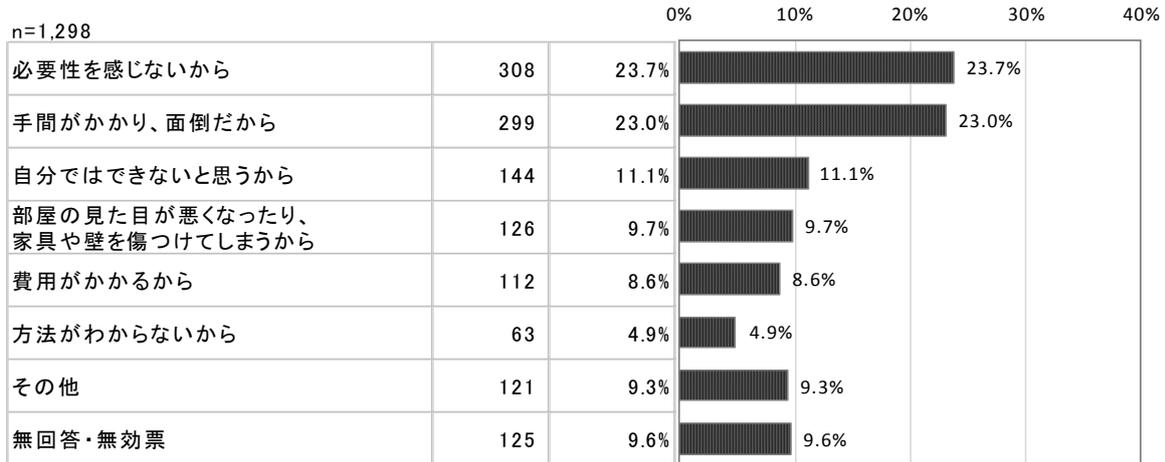
また、家具を「固定していない」人の固定しない理由として、「必要性を感じないから」(23.7%)「手間がかかり、面倒だから」(23.0%)がともに多く、合わせると46.7%となっています。

【家具の固定】

n=3,217



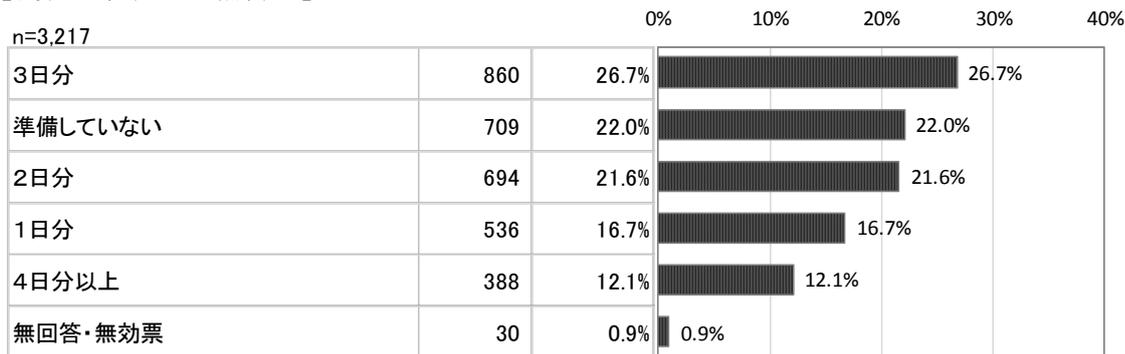
【家具を固定しない人の固定しない理由】



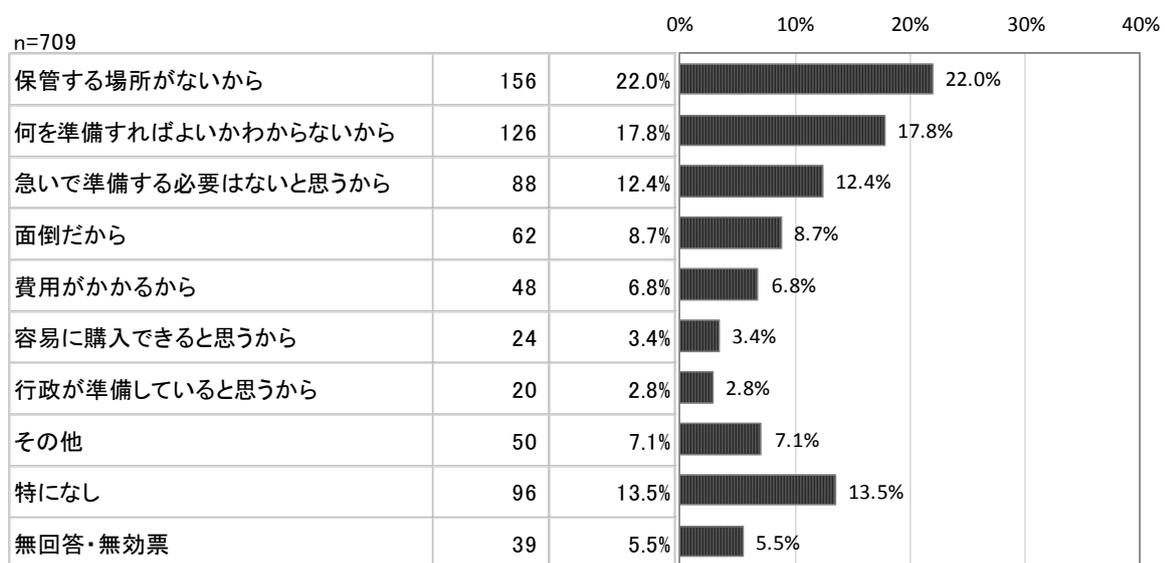
●食料・飲料水の備蓄（問9、9-1）<⇒P5「備蓄をしましょう。」>

「3日分」(26.7%)が最も多く、「4日分以上」(12.1%)と合わせると約4割となりました。一方で「準備していない」(22.0%)が次点となっています。また、「準備をしていない」と回答した人のうち、「保管する場所がないから」(22.0%)と答えた人が最も多く、次いで「何を準備すればよいかわからないから」(17.8%)、「急いで準備する必要はないと思うから」(12.4%)の順になっています。

【食料・飲料水の備蓄量】



【食料・飲料水の備蓄をしていない人の備蓄をしない理由】

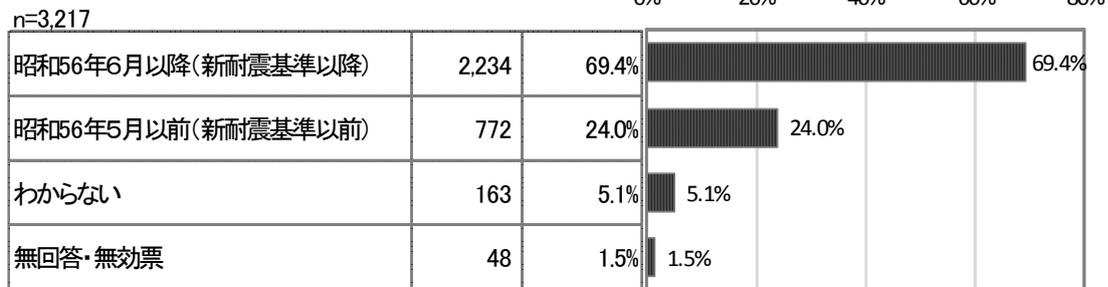


●古い耐震基準（昭和56年5月以前）の建物の耐震対策（問5、5-1）

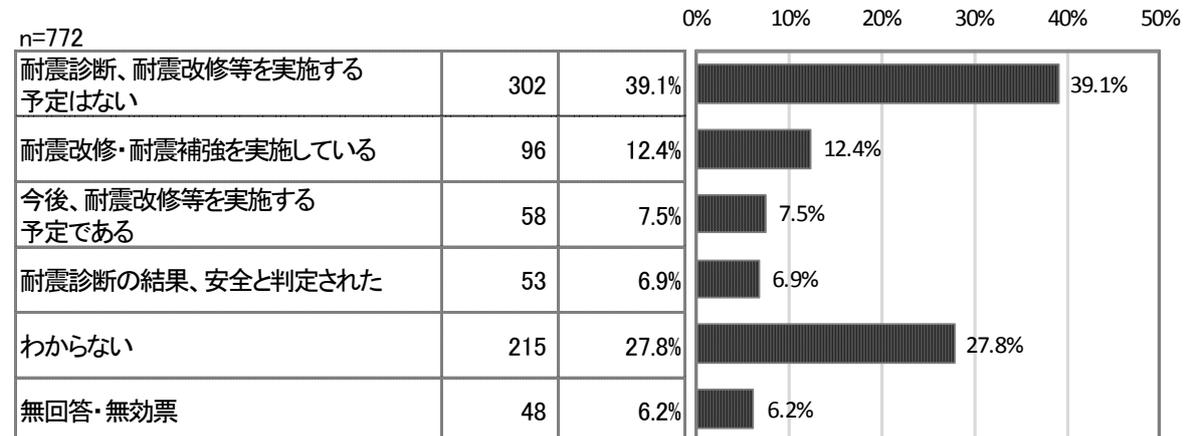
「昭和56年6月以降（新耐震基準以降）」（69.4%）に建築された建物が最も多く、次いで「昭和56年5月以前（新耐震基準以前）」（24.0%）に建築された建物が多いという結果になりました。

「昭和56年5月以前（新耐震基準以前）」に建築された建物に住んでいる人のうち、「耐震改修・耐震補強を実施している」（12.4%）、「耐震診断の結果、安全と判定された」（6.9%）を合わせると19.3%という結果になりました。

【建物時期】



【昭和56年5月以前（新耐震基準以前）の建物の耐震対策】

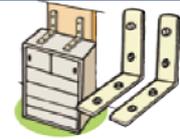


◎室内を安全にしましょう。

災害はいつおこるかわかりません。ご自身や家族の命を守るためには、家具の転倒防止の対策をするなど、日ごろの取組が大切です。できるところから備えましょう。

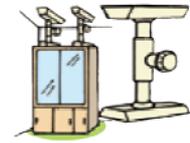
金具による固定

- し字金具やチェーンで柱や壁の間柱に固定する。
- 重ねた家具は上下で固定する。



ポール式器具(突っ張り棒)による固定

- 家具と天井の間に突っ張り棒を入れて、固定する。
- 家具の両端に設置する。
- 柔らかいベニヤ板などの天井には不向き。



粘着マット粘着ベルト

- 金具で固定できないテレビや冷蔵庫は、粘着マットや粘着ベルトで固定する。



収納や置き方を工夫する

- 重いものは下に収納する。
- 高いところに物を置かない。
- 家具の前の方に板を敷き、壁に寄りかからせる。

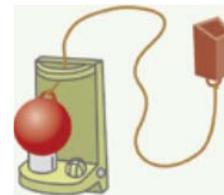
その他

- 扉の無い棚には、落下防止のために滑り止め用のシートを敷く。
- 扉や引き出しが開かないように、止め金具をつける。
- 窓や食器棚にガラス飛散防止フィルムを貼る。



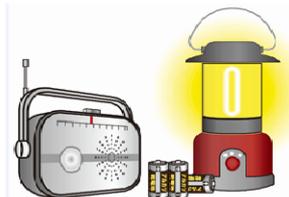
◎「感震ブレーカー」を設置しましょう。

「感震ブレーカー」とは、大きな揺れを感じた場合に電気を自動的に遮断するものです。近年の大地震で発生した火災の6割以上が電気に起因する火災とされています。「感震ブレーカー」の設置は、地震時の出火を大きく減らすことができます。是非設置を検討してください。



◎備蓄をしましょう。

災害発生直後は、食料や日用品の購入は難しくなります。必要な備蓄や非常持出品を準備しておきましょう。備蓄する量の目安は**最低3日分です**



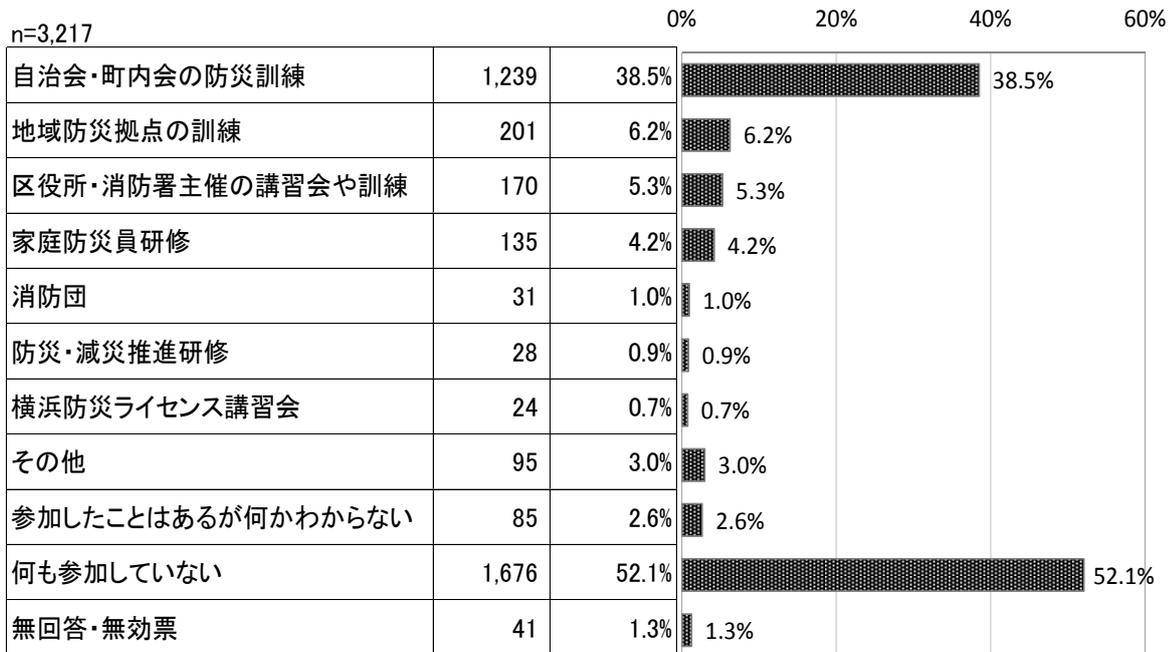
ポイント3 (問 13、13-1)
研修や訓練への参加

「何も参加していない」が約5割を超える

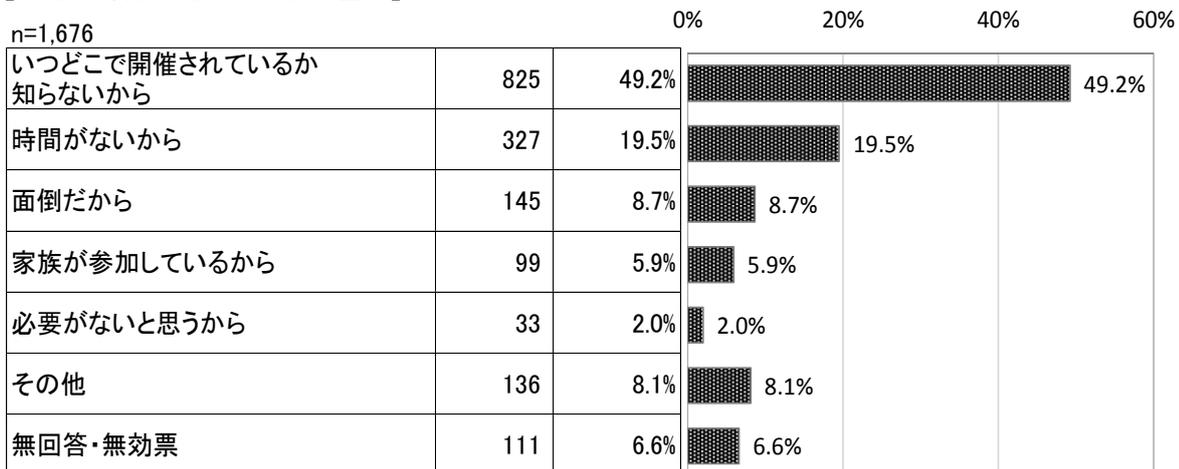
「何も参加していない」(52.1%)が5割を超えています。「自治会・町内会の防災訓練」(38.5%)で次点となっています。訓練や研修に参加しない理由として、「いつどこで開催されているか知らないから」(49.2%)が最も多く、次いで「時間がないから」(19.5%)となりました。

地域の訓練や横浜市が実施する研修に積極的に参加して、災害への備えに取り組んでいくことが大切です。

【研修や訓練への参加】



【研修や訓練に参加しない理由】



**ポイント4 (問 16、30)
各種広報物などの認知度**

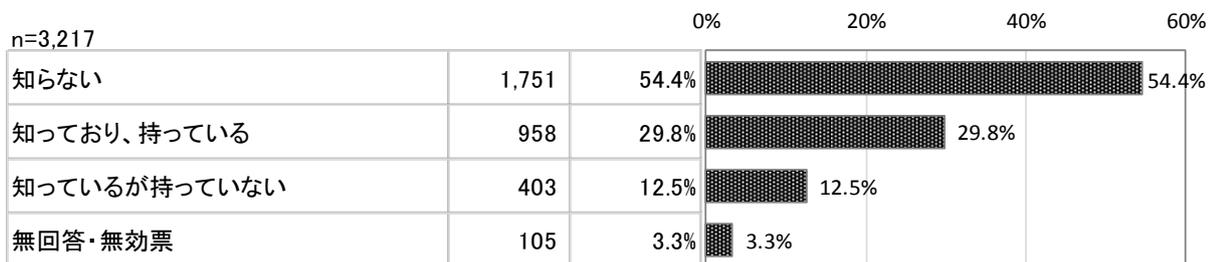
**減災パンフレットの認知度は、約4割
土砂災害ハザードマップの認知度は、約3割**

減災パンフレットや各種ハザードマップなどの広報物の認知度は50%に満たず、全体的に低いことが分かりました。年代別にみると、10歳代から40歳代の「知らない」の割合が高くなっています。

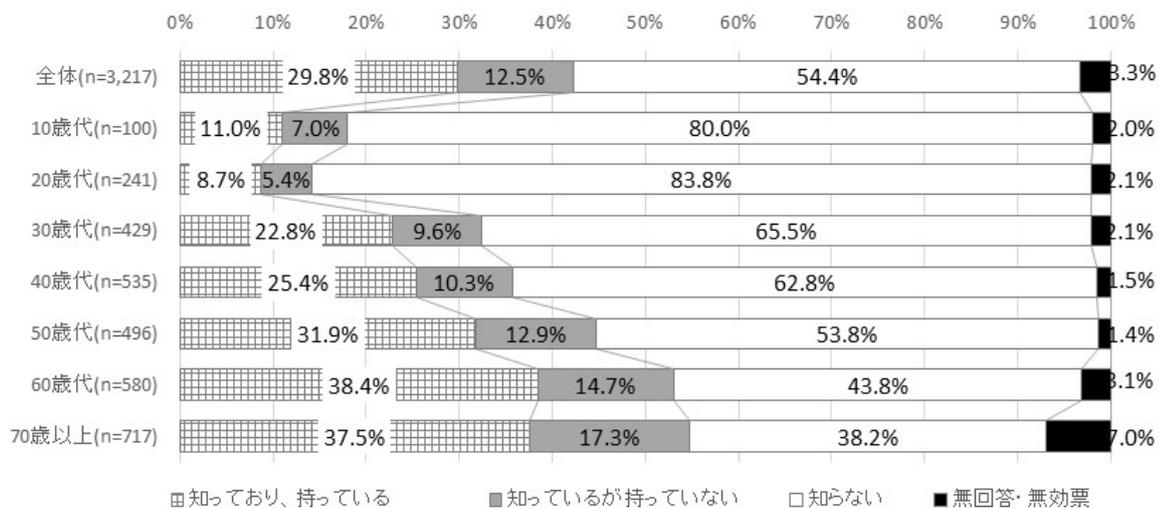
減災パンフレットや各種ハザードマップなどで、減災・防災の知識の取得、自宅の周りの危険箇所や避難場所の把握、避難ルートの確認をすることが大切です。

●減災パンフレット「わが家の地震対策」の認知度 (問 16)

減災パンフレット「わが家の地震対策」は、「知っており、持っている」(29.8%)と「知っているが持っていない」(12.5%)を合わせると認知度は42.3%となりました。一方で、「知らない」は半数を超えました。特に10歳代から40歳代までは「知らない」が60%を超えています。



【年代別】



◎減災パンフレット「わが家の地震対策」

各家庭や地域で、減災行動に向けた「自助・共助」の知識を深め、地域における災害の危険性を再認識していただき、適切な行動をしていただくため、自助・共助の取組内容と震度、液状化、津波浸水等のハザードマップを合わせ、区別に作成したものです。

平成25年度に全戸配布し、以降転入者に配布しています。ぜひ日頃から手元においていただき、家庭や地域での防災・減災対策にご活用ください。

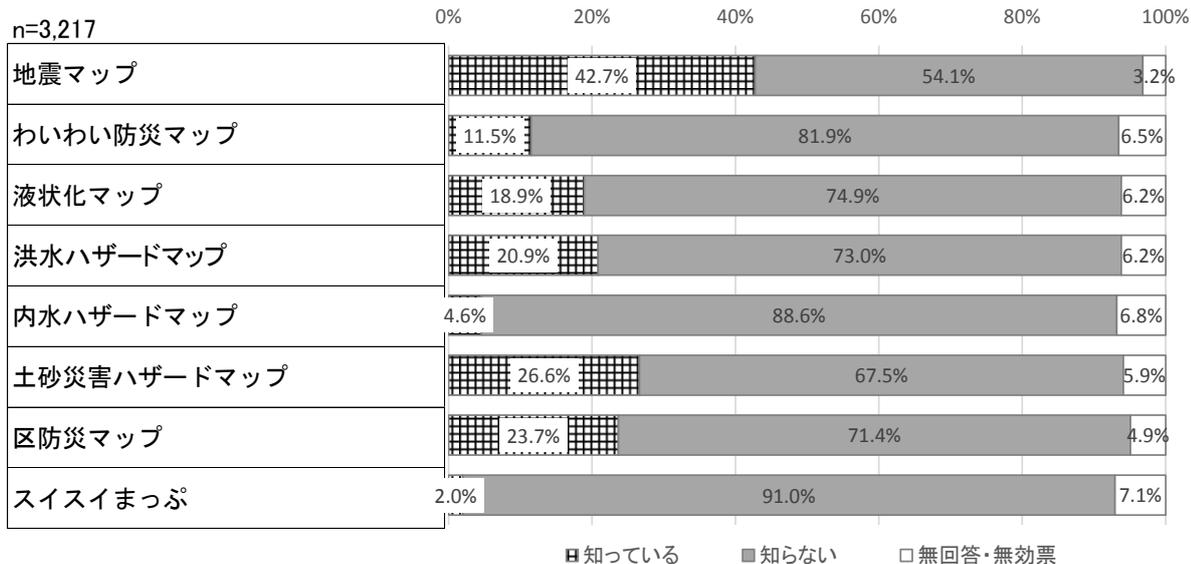
URL :

<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kikikanri/wagayanojishintaisaku/>

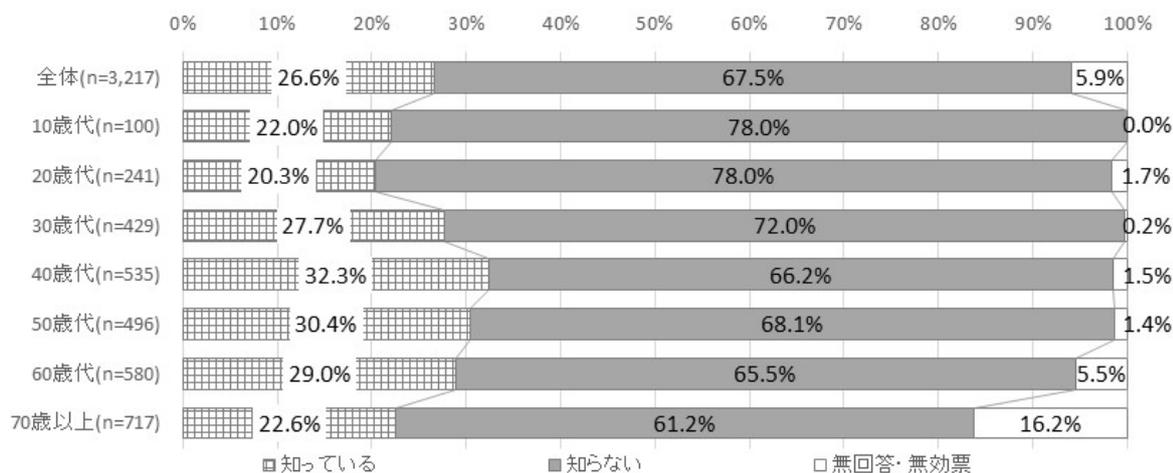


●各種ハザードマップの認知度（問 30）

土砂災害ハザードマップについては、「知っている」（26.6%）、「知らない」（67.5%）という結果になりました。その他のマップについても認知度は、50%に満たず、低いことが分かりました。



【年代別__土砂災害ハザードマップ】



◎「大雨から身を守るために」（土砂災害ハザードマップ）

梅雨時期の集中豪雨や台風に伴う豪雨などにより、崖崩れが発生した場合に被害がおよぶおそれのある区域を示し、崖崩れ災害が予想される場合や崖崩れが発生した場合に、市民の皆さんが避難などの適切な行動をとっていただくために、区別に作成したものです。

平成 27 年度に全戸配布をしました。

大雨で危険が迫った際、どのような行動をとれば良いか、自宅の周りに危険な崖地はないかご確認ください。

URL :

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenchiku/kenbou/bousai/gake/gake/hmap/>



◎各種ハザードマップのホームページでの確認方法

1. 横浜市ホームページのトップページにある「防災」をクリック



2. 「防災の地図」をクリック。



◎各種ハザードマップの種類、用途

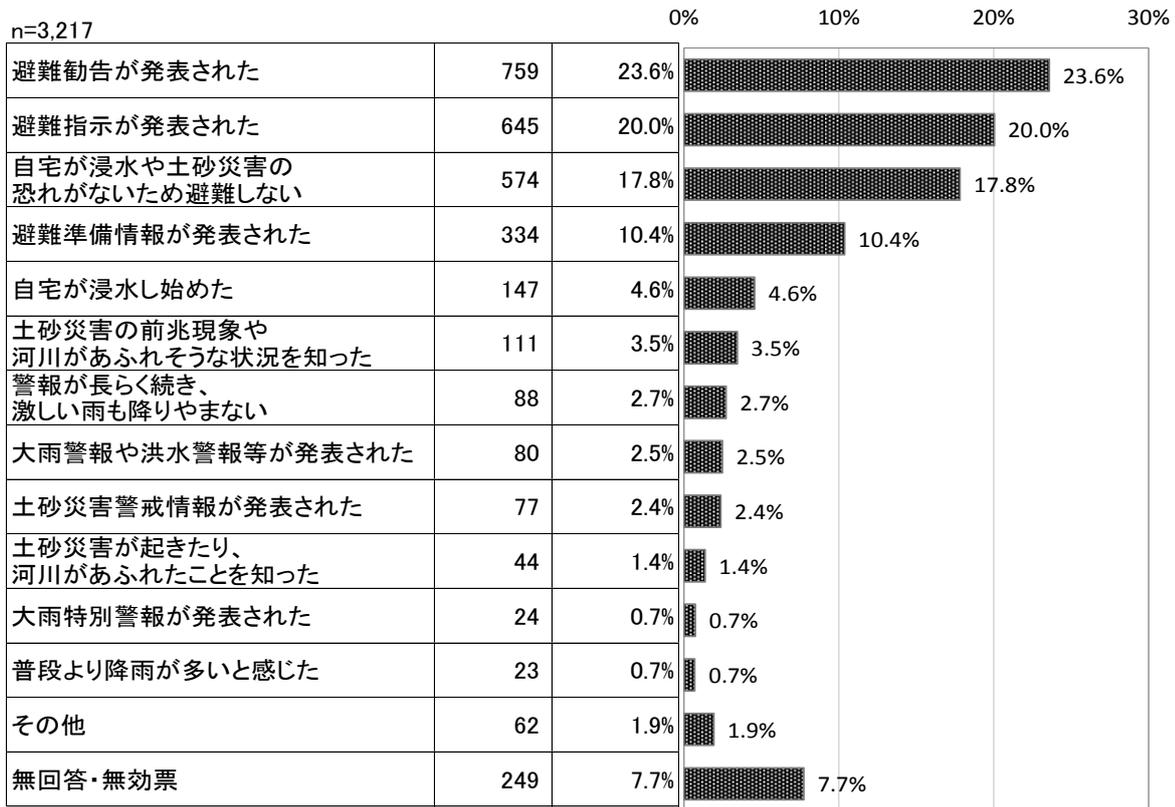
名称	用途	内容	
地震マップ	大地震が発生した際のお住まいの地域周辺が概ねどの程度の震度になるかを確認できます。	横浜市で被害想定対象とした3地震の震度分布を図示したものです。	
わいわい防災マップ	大地震が発生した際のお住まいの地域周辺の危険性や危険を回避するための情報を確認できます。 <u>各マップの情報がまとめてみたいときは便利です。地図の印刷もできます。</u>	震度、浸水区域、焼失棟数、各避難場所、災害時給水所、土砂災害計画区域、避難に適する道路・適しない道路、緊急輸送路などをユーザの選択により任意で表示できるものです。	
液状化マップ	大地震が発生した際のお住まいの地域周辺が概ねどの程度液状化の危険があるかを確認できます。	横浜市で被害想定対象とした3地震の液状化危険度分布を図示したものです。	
浸水ハザードマップ	洪水ハザードマップ	河川の氾濫による浸水について、日頃からどのように備えればよいか、大雨時にどのようなことに注意すればよいか、お住まいの地域が河川の氾濫によりどの程度浸水するかを確認できます。	情報面には、日頃からの備え、大雨時の注意点を掲載し、地図面には、浸水区域、避難場所を図示したものです。
	内水ハザードマップ	下水道や水道からの浸水について、日頃からどのように備えればよいか、大雨時にどのようなことに注意すればよいか、お住まいの地域が下水道や水道からどの程度浸水するか確認できます。	情報面には、日頃からの備え、大雨時の注意点を掲載し、地図面には、浸水区域を図示したものです。
土砂災害ハザードマップ	大雨時がけ崩れが発生しそうな場合、どのような行動をとればよいか、日頃からどのように備えればよいか、お住まいの地域周辺ががけ崩れの恐れがあるか確認できます。	情報面には、土砂災害に係る防災情報の流れ、日頃からの備え、がけ崩れの兆候及び避難行動などを掲載し、地図面には、土砂災害警戒区域、急傾斜地崩壊危険区域、避難場所を図示したものです。	
スイスイマップ	お住まいの地域周辺の災害時に水を給水できる場所を確認できます。	災害時に災害時給水所（災害用地下給水タンク、配水池、緊急給水栓）を表示できるものです。	

ポイント5 (問 28)
風水害時の避難行動

「避難勧告が発表された」場合に、避難行動を開始する方が最も多く約2割

「避難勧告が発表された」(23.6%)が最も多い結果となりました。次いで「避難指示が発表された」(20.0%)、「自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない」(17.8%)の順となっています。

災害から命を守るためには、「自分だけは災害に遭わない」という意識を変え、様々な情報から危険を感じとり、主体的に避難行動をとることが大切です。特にがけ崩れや河川の氾濫などの前兆現象を確認するなど命の危険を感じた場合は、行政からの指示を待たず、適切な避難行動をとりましょう。



◎土砂災害の前兆現象と避難行動

避難のサイン (情報は早めに!!)



避難行動 (早めに行動!!)

安全な場所へ避難 (避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域外の親戚の家など)



堅牢な建物の2階以上または、
近隣の高い建物へ避難



建物内の安全な場所で待避

(夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ
避難するとかえって危険な場合)



横浜市民の危機管理
アンケート調査

単純集計結果

総務局危機管理室

平成27年10月

1. 地震対策

- | | |
|---------------------------------------|-----|
| (1) 大地震への不安等について (問1～問3) | 1P |
| (2) あなたのご家庭での日ごろの防災対策(自助)について(問4～問12) | 2P |
| (3) 地域での取り組み(共助)について(問13～問17) | 9P |
| (4) 避難場所等について(問18～問20) | 13P |
| (5) 災害時の医療について(問21) | 14P |

2. 風水害対策

- | | |
|--------------------------------------|-----|
| (1) あなたが風水害に対して心配していることについて(問22～問23) | 14P |
| (2) 風水害に対して行っている対策について(問24) | 16P |
| (3) 避難行動について(問25～問28) | 16P |

3. 情報収集

- | | |
|---------------------------|-----|
| (1) 災害に関する情報について(問29～問31) | 18P |
| (2) 危機管理に係るご意見について(問32) | 21P |

4. フェイスシート

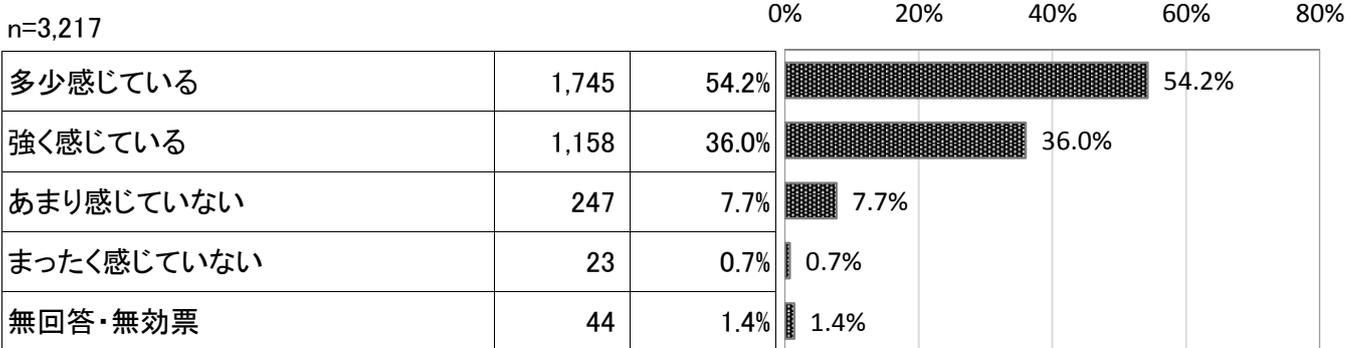
- | | |
|--------------------------|-----|
| (1) あなたご自身のことについて(F1～F7) | 22P |
|--------------------------|-----|

単純集計結果

1. 地震対策

(1) 大地震への不安等について

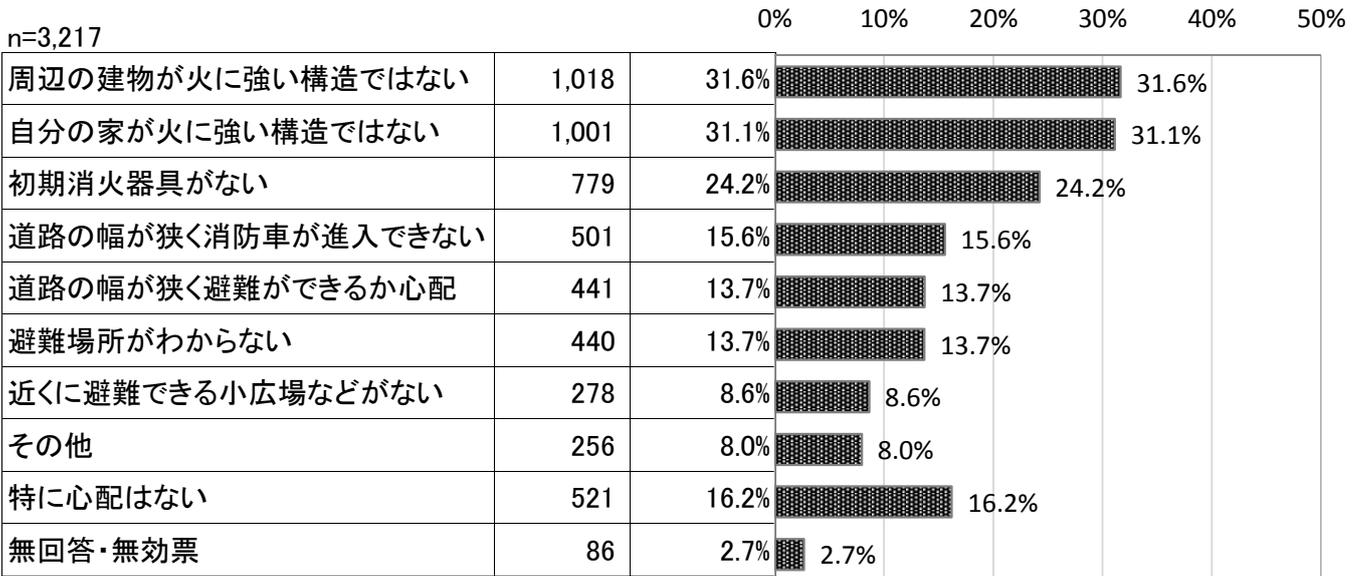
問1 あなたは自分の住んでいる地域で、大地震が近く起きるのではないかと不安を感じていますか、感じていませんか。1つ選択



問2 あなたの住んでいる地域で大地震が発生した場合、特にどのようなことが心配ですか。5つまで選択

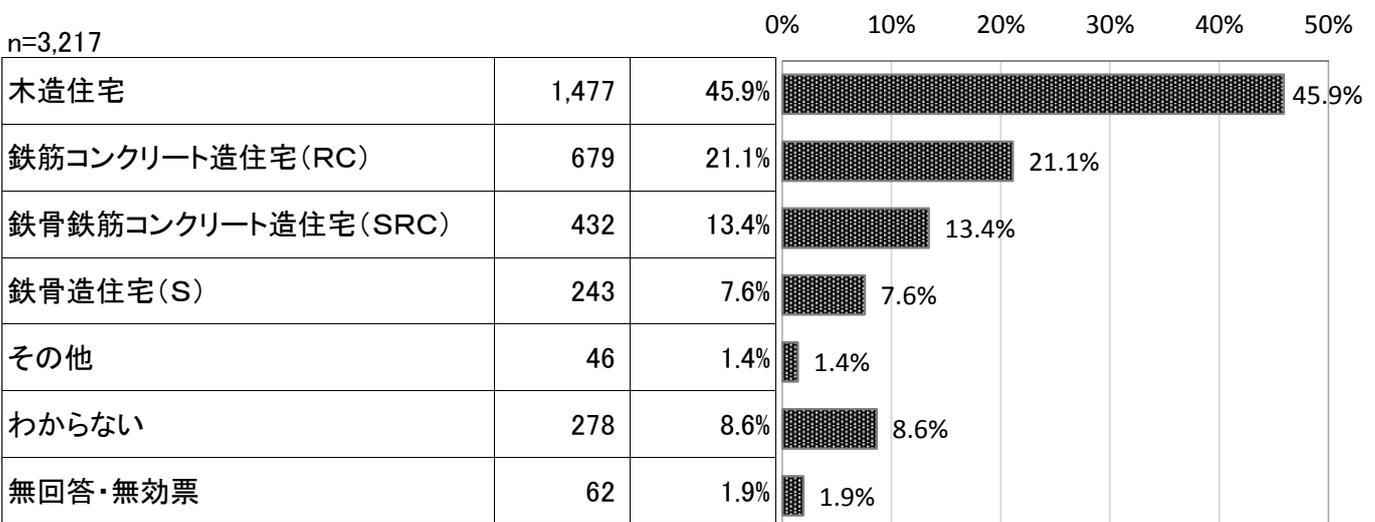


問3 阪神・淡路大震災では、地震により発生した大規模火災が深刻な被害をもたらしました。地震火災に関してあなたの住んでいる地域で、心配なことをこの中から選んでください。該当するものすべて選択

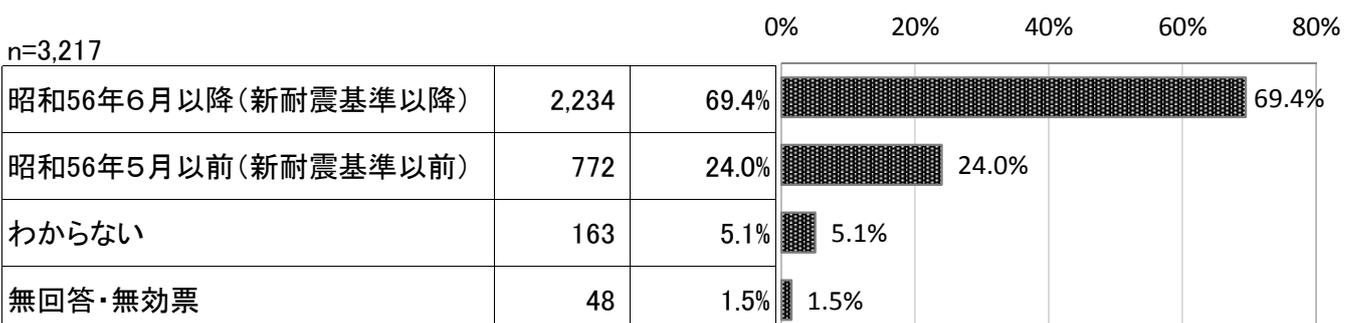


(2) あなたのご家庭での日ごろの防災対策（自助）について

問4 あなたのご自宅の耐震化について伺います。あなたのご自宅の構造は、次のうちどれに当たりますか。1つ選択



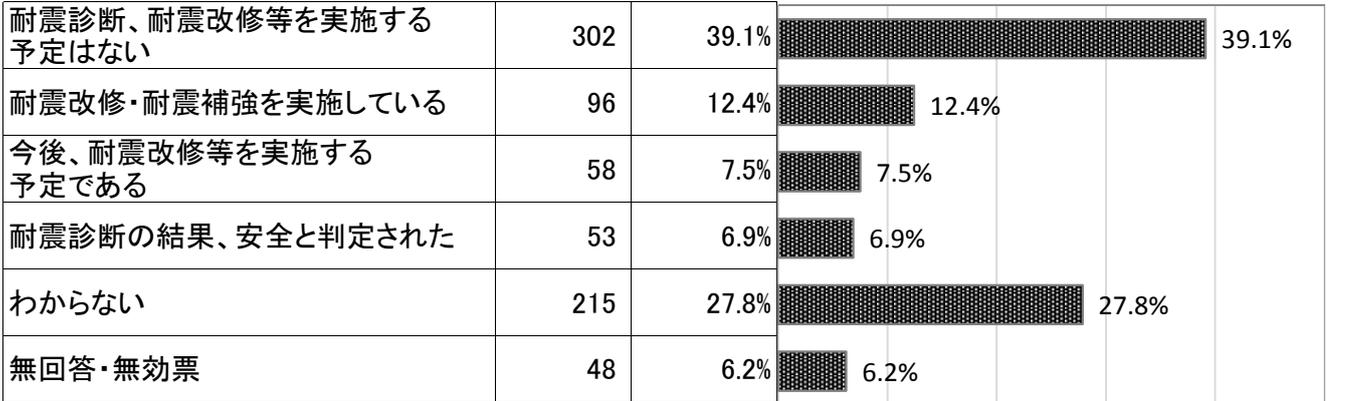
問5 あなたのご自宅は、いつ頃建てられた建物ですか。1つ選択



(問5で「昭和56年5月以前」と答えた方へご回答ください)

問5-1 ご自宅の建物の耐震対策について、該当するものを選んでください。1つ選択

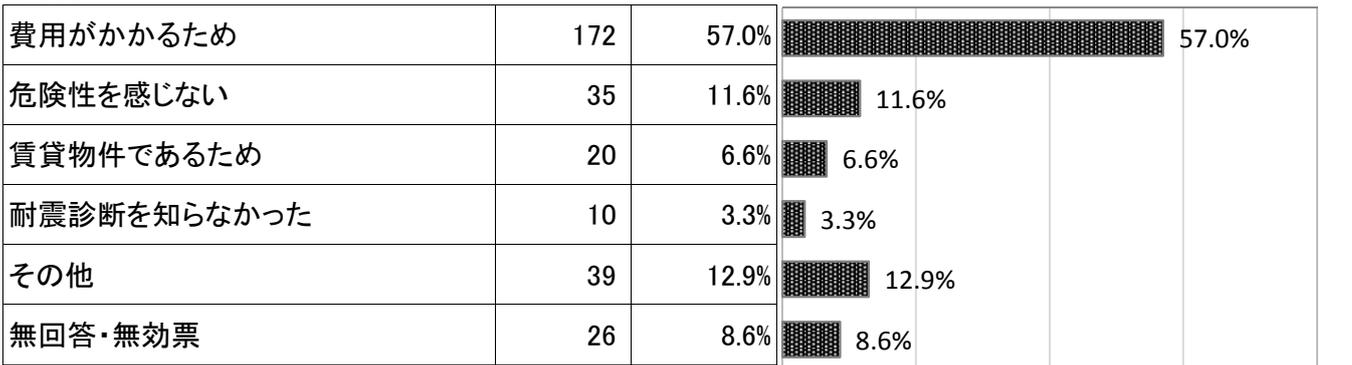
n=772



(問5-1で「耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない」と答えた方へご回答ください)

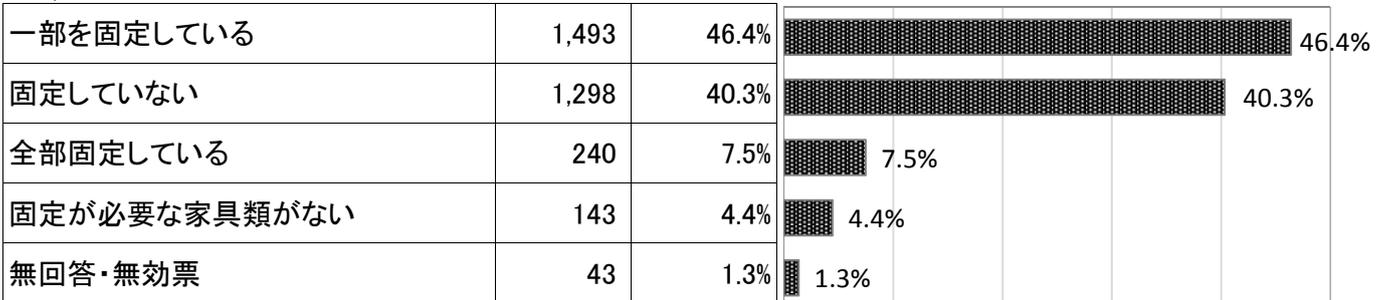
問5-2 耐震診断を受けていない、あるいは、耐震改修等を実施しない理由について、該当するものを選んでください。1つ選択

n=302



問6 あなたのご自宅では、地震によって転倒するおそれのある家具類（タンスや食器棚等）を固定していますか。1つ選択

n=3,217

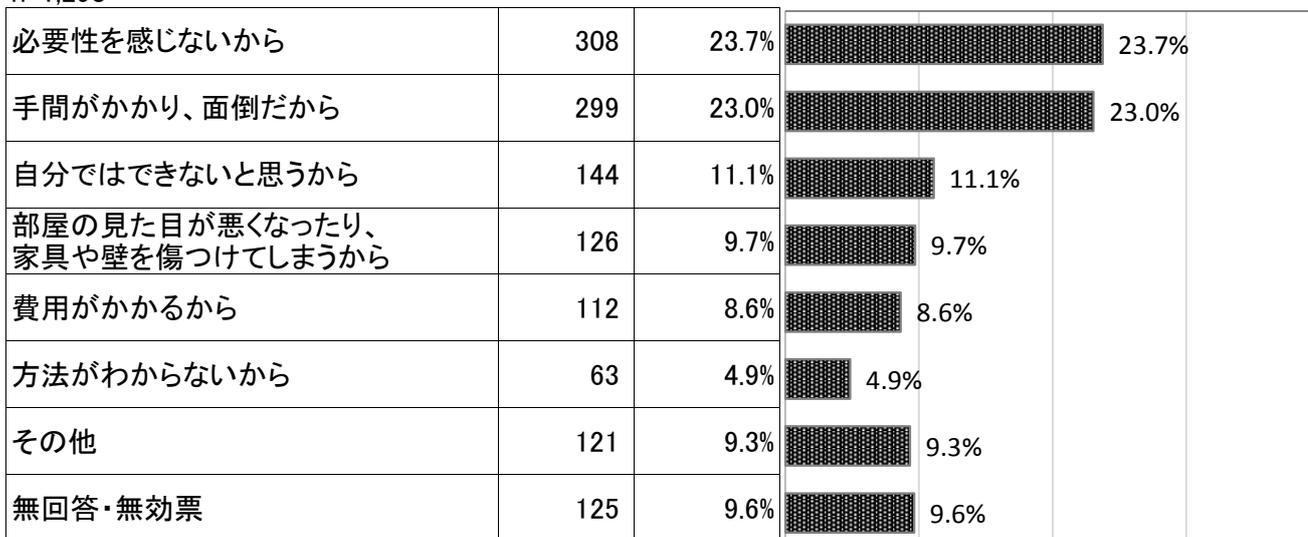


(問6で「固定していない」と答えた方にご回答ください)

問6-1 あなたが家具類の固定をしていない理由について、次の中からお選びください。1つ選択

n=1,298

0% 10% 20% 30% 40%

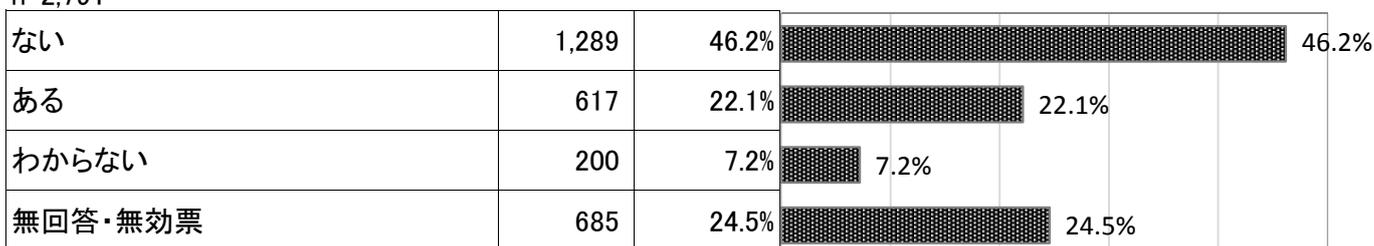


(問6で「一部を固定している」「固定していない」と答えた方にご回答ください)

問6-2 あなたのご自宅では、家具類の転倒によって、就寝中に負傷・死亡する、又は、避難口（玄関等）までの通行を妨げる可能性がありますか。1つ選択

n=2,791

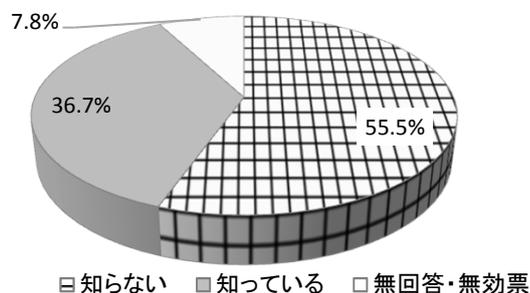
0% 10% 20% 30% 40% 50%



問7 東日本大震災や阪神・淡路大震災では、火災の原因の約6割が電気によるものといわれています。あなたは、設定値以上の震度の地震発生時に自動的に電気の供給を遮断する器具である「感震ブレーカー」を知っていますか。1つ選択

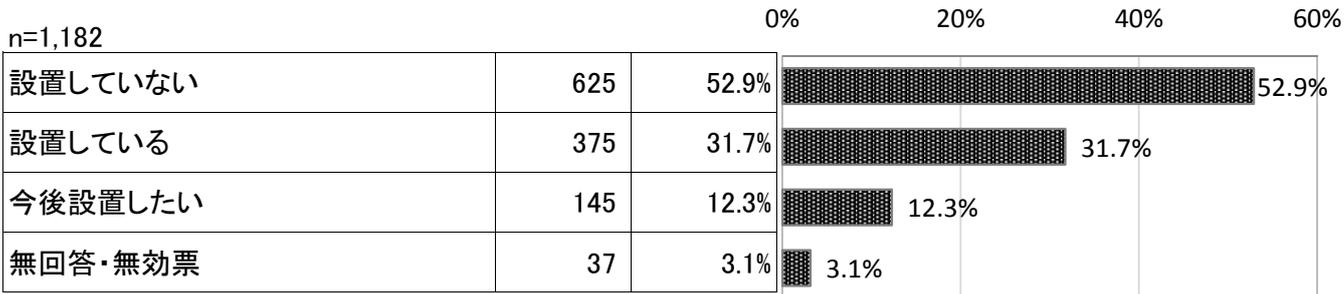
n=3,217

知らない	1,785	55.5%
知っている	1,182	36.7%
無回答・無効票	250	7.8%



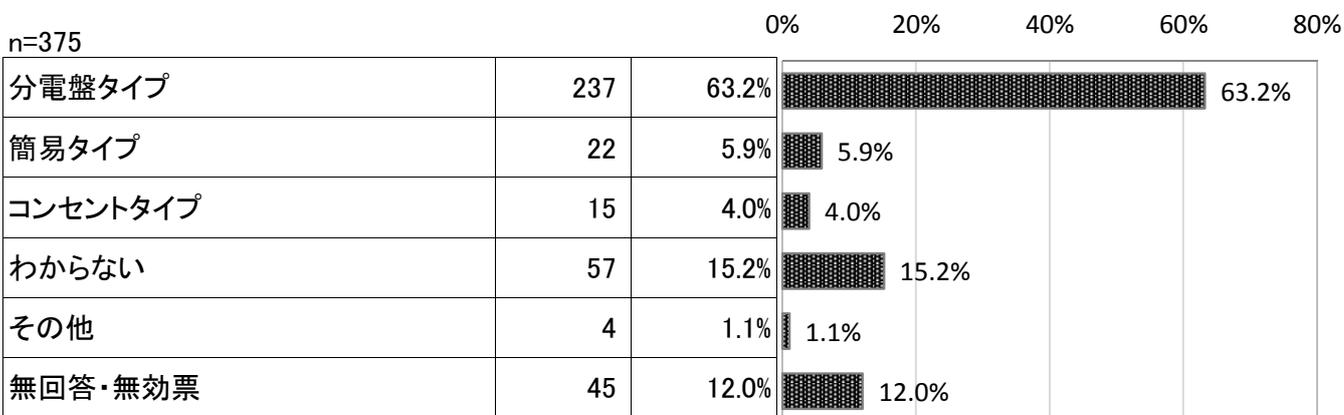
問8 あなたのご自宅では、「感震ブレーカー」を設置していますか。1つ選択
 ※問7で「知っている」と答えた人のみ回答

n=1,182



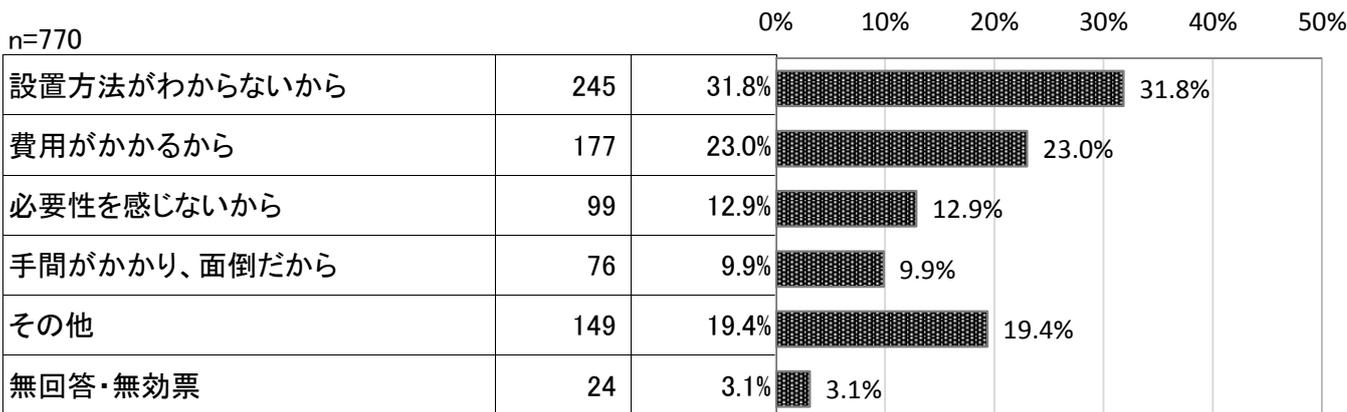
(問8で「設置している」と答えた方にご回答ください)
 問8-1 あなたが設置している「感震ブレーカー」のタイプについて次の中からお選びください。
 該当するものすべて選択

n=375

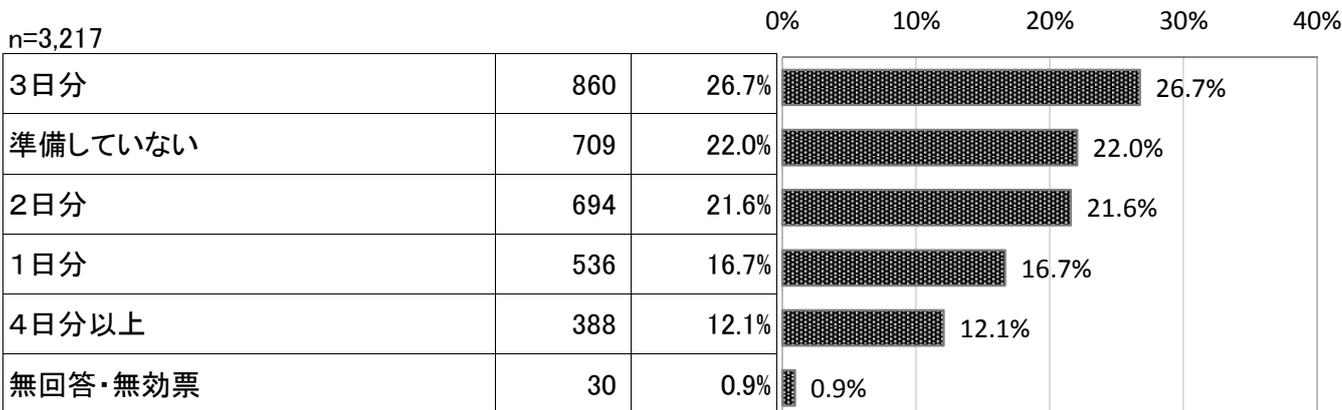


(問8で「設置していない」「今後設置したい」と答えた方にご回答ください)
 問8-2 あなたが「感震ブレーカー」を設置していない理由について、次の中からお選びください。
 1つ選択

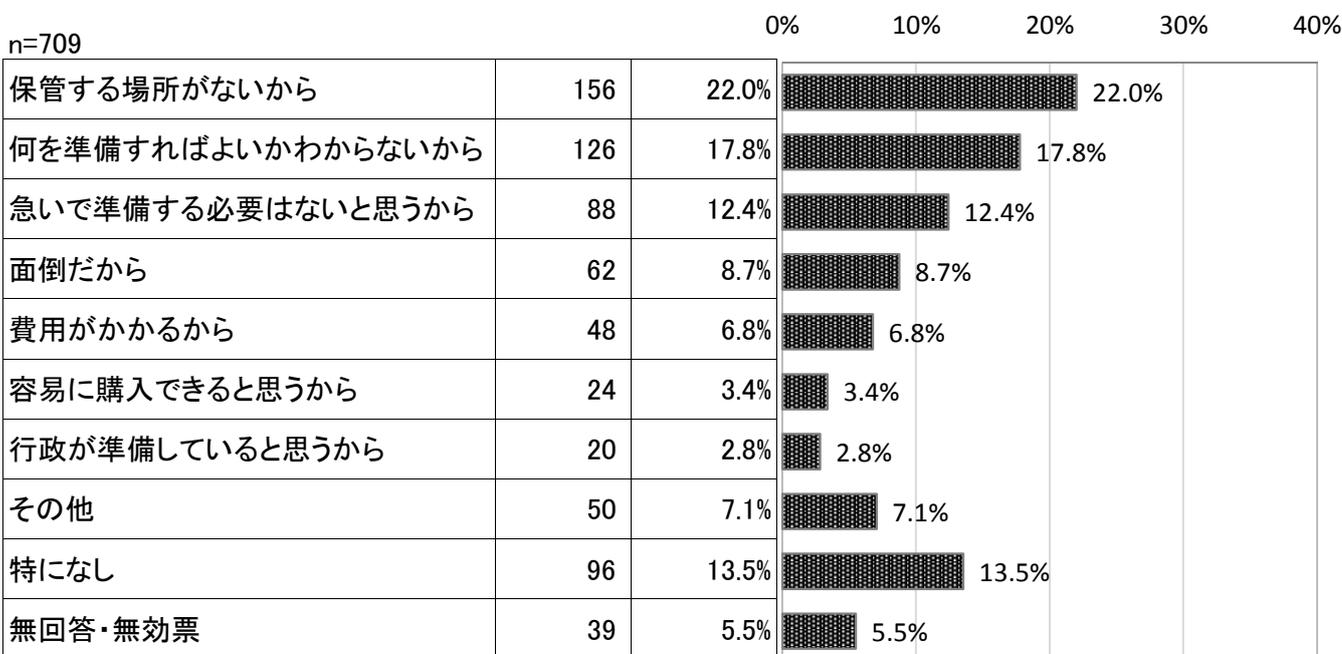
n=770



問9 あなたのご家庭では、震災に備えて何日分の食料、飲料水（1人1日あたりの目安は3リットル）を準備していますか。1つ選択



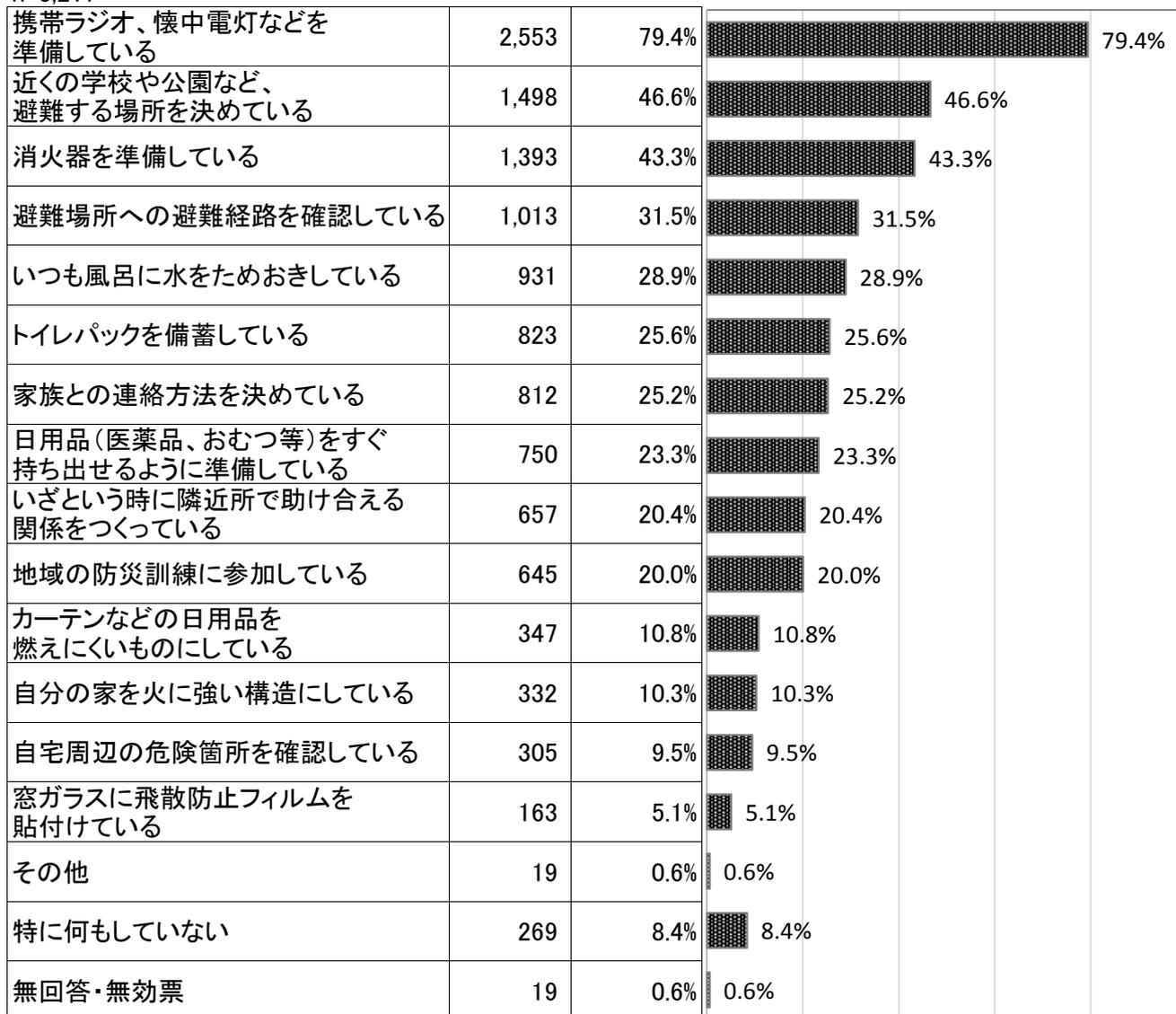
（問9で「準備していない」と答えた方にご回答ください）
問9-1 準備していない理由は何ですか。1つ選択



問10 あなたやあなたのご家庭では、家具の固定や水・食料の準備等以外で現在、どのような対策をしていますか。該当するものすべて選択

n=3,217

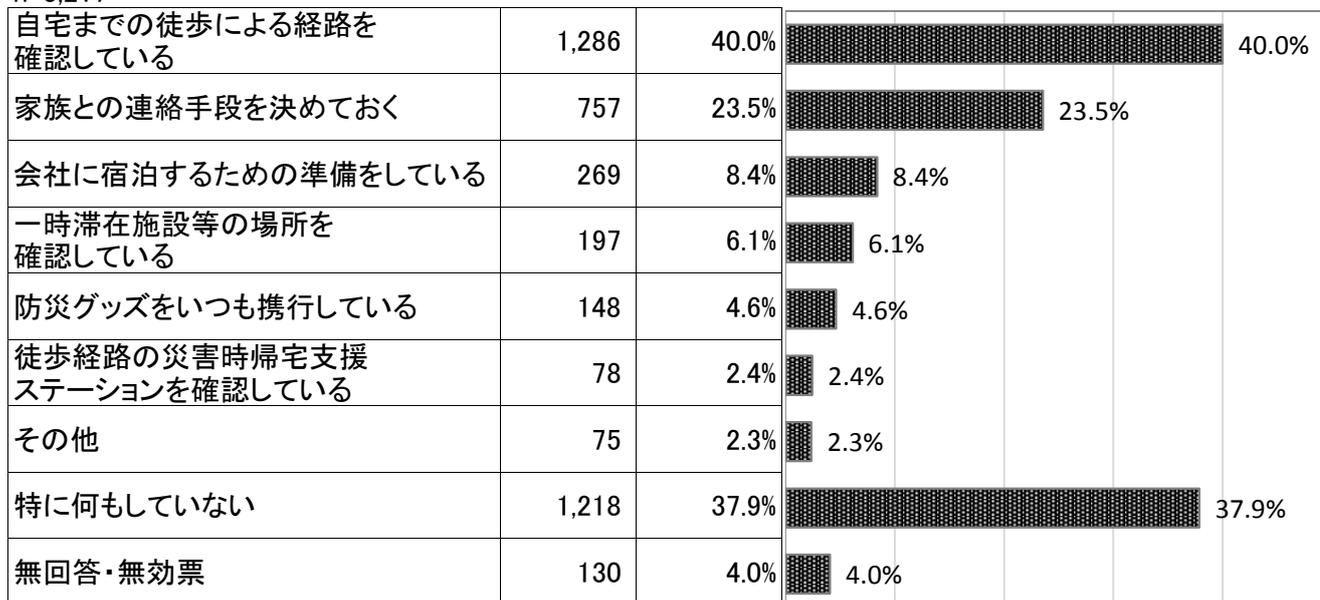
0% 20% 40% 60% 80% 100%



問11 勤務先や外出先で、大地震等の発生により交通機関が停止し、道路も通行不能となった場合に備えた対策を行っていますか。該当するもの全て選択

n=3,217

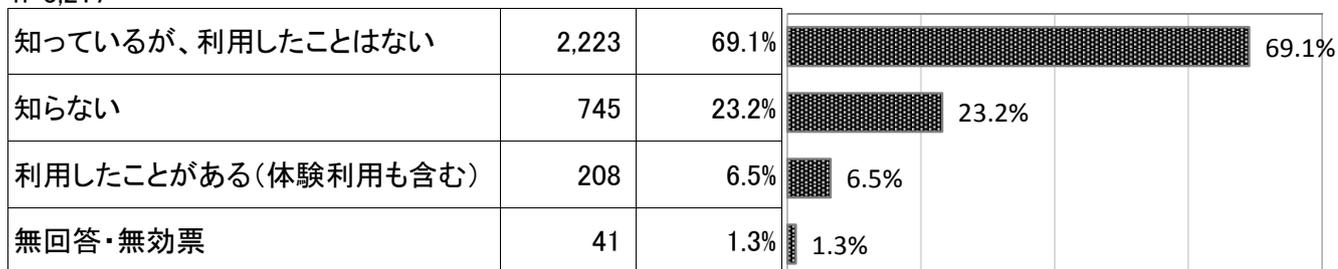
0% 10% 20% 30% 40% 50%



問12 あなたは、大地震等が発生した場合に利用できる、自分自身の無事を伝え、家族の安否を確認するための「災害用伝言ダイヤル（171）及び災害用伝言板（Web171）」を知っていますか。1つ選択

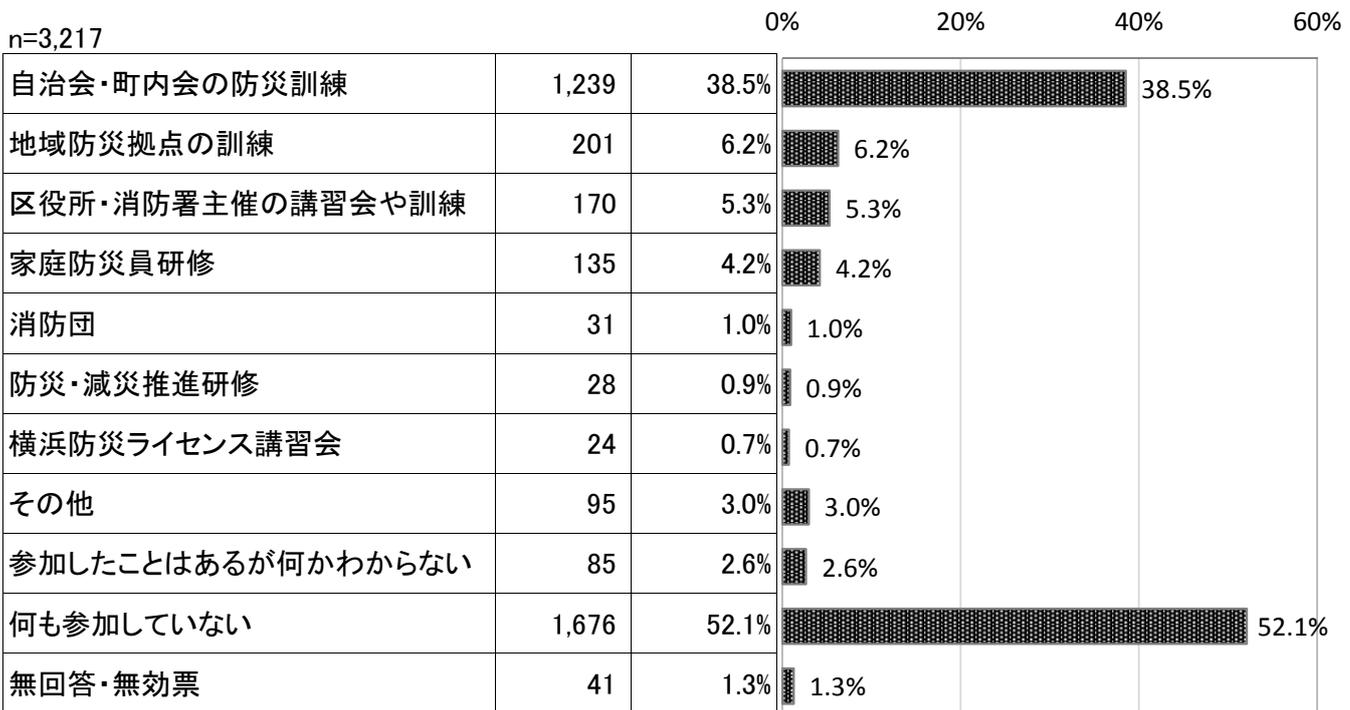
n=3,217

0% 20% 40% 60% 80%

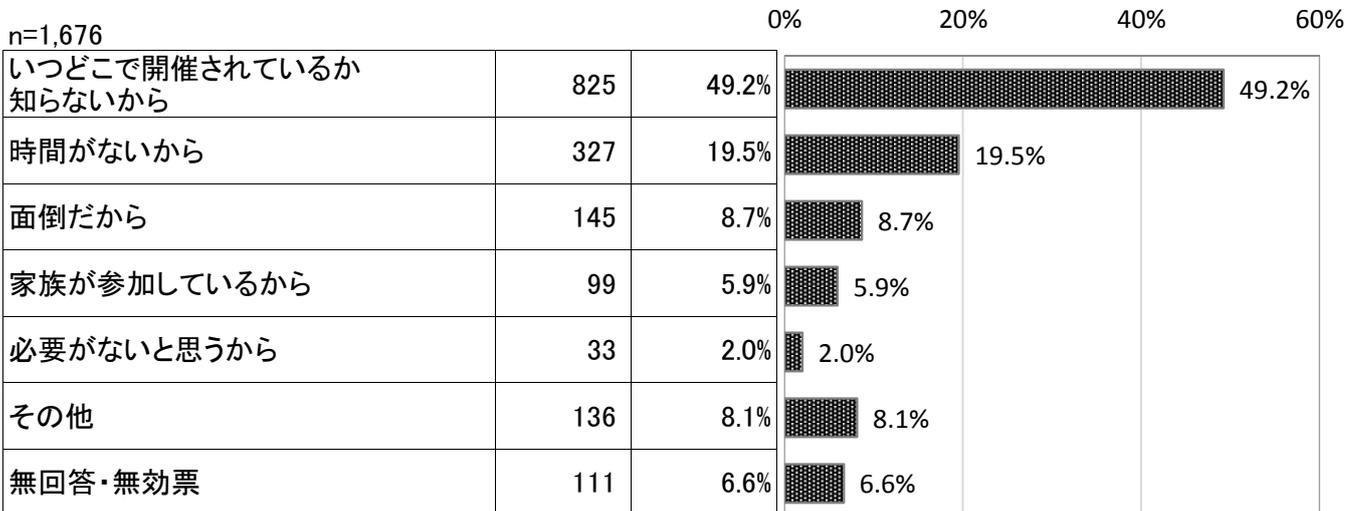


(3) 地域での取り組み（共助）について

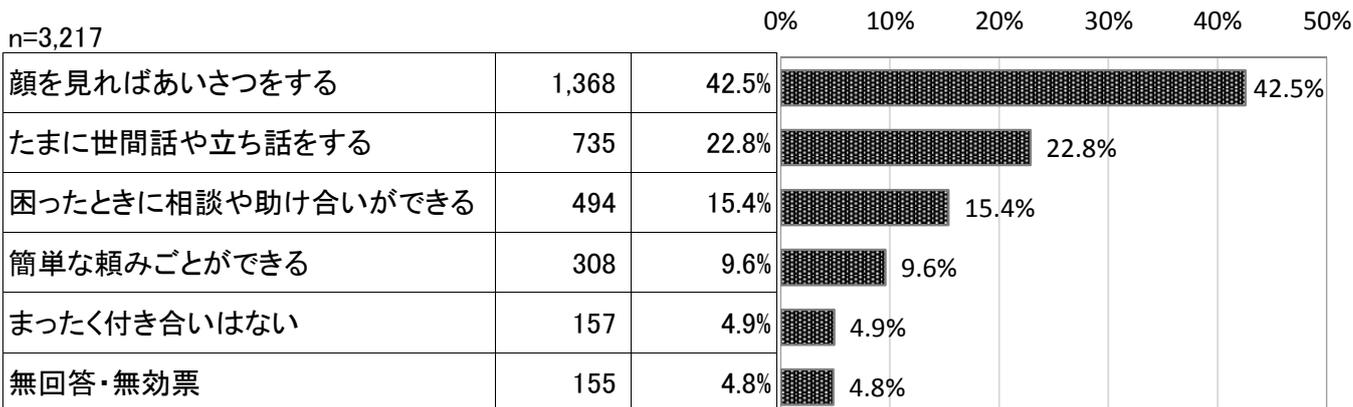
問13 あなたは次の研修や訓練等に参加したことがありますか。該当するものすべて選択



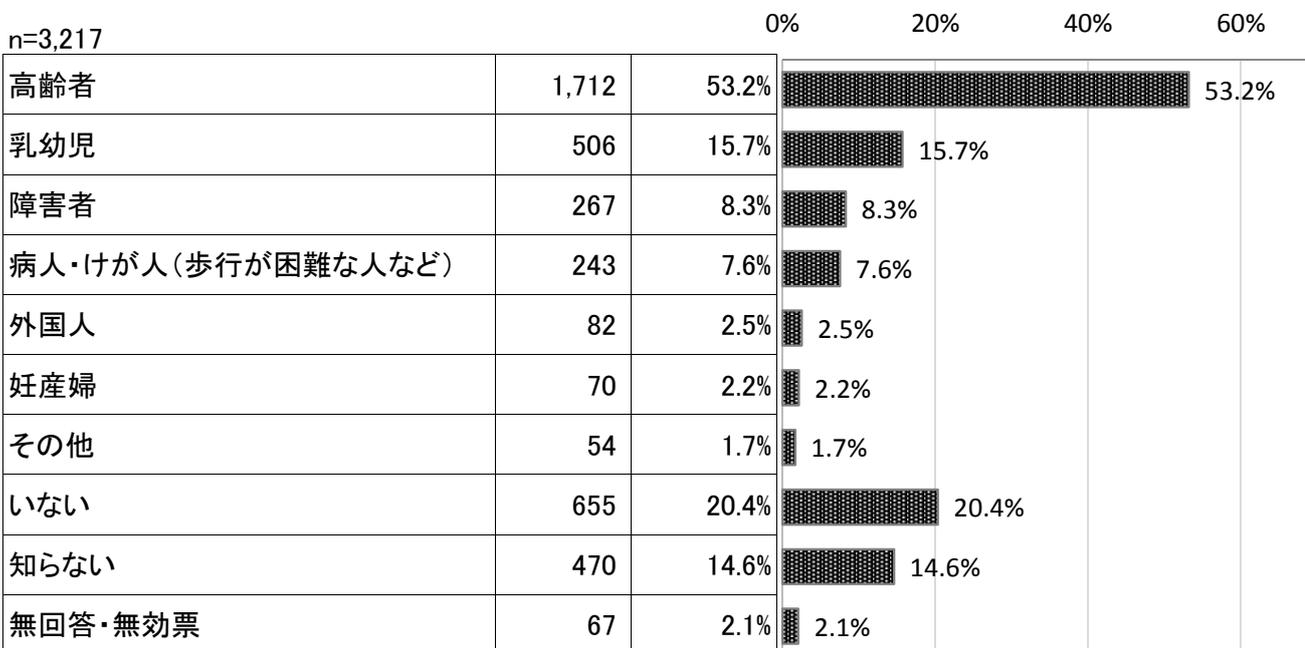
(問13で「何も参加していない」と答えた方にご回答ください)
問13-1 何も参加していない理由をお選びください。1つ選択



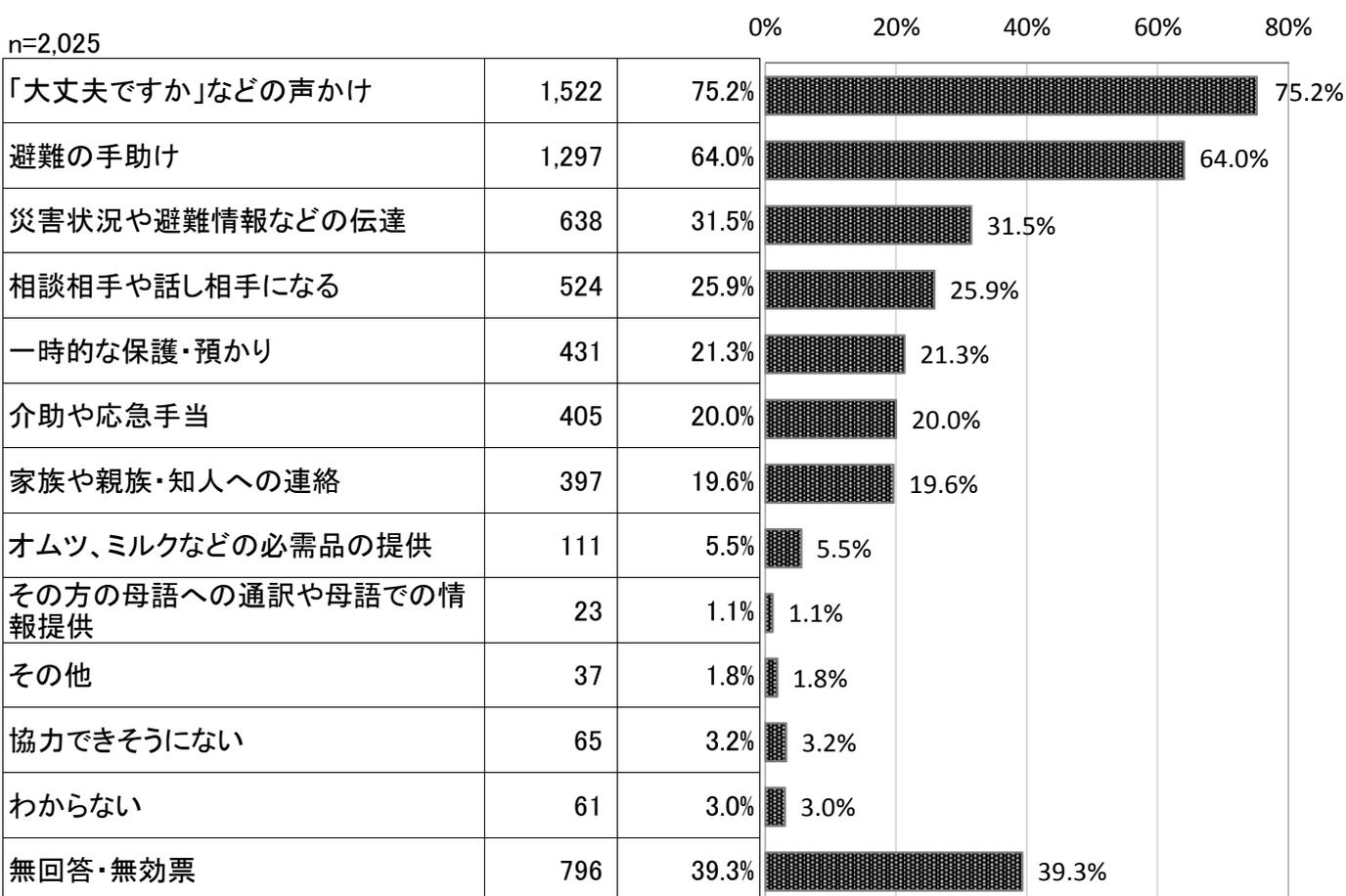
問14 あなたは日頃、近所の人とどの程度の付き合いをしていますか？1つ選択



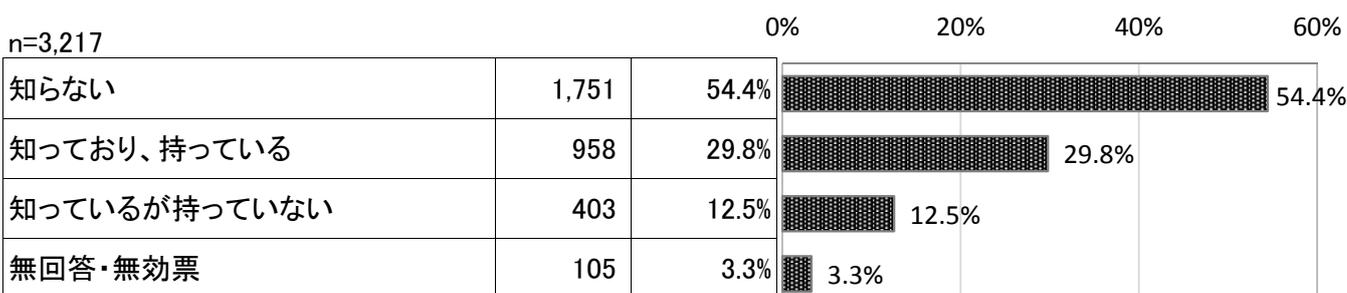
問15 大地震等の災害が起こった時に、ご近所に避難時に手助けが必要になりそうな人（例えば、自力で避難することが困難な高齢者や障害者、乳幼児、病人、妊産婦、日本語が不自由な外国人など）はいますか。該当するものすべて選択



(問15で「避難時に手助けが必要になりそうな人」がいると答えた方にご回答ください)
 問15-1 その人にはどのような支援(手助け)ができますか?該当するものすべて選択

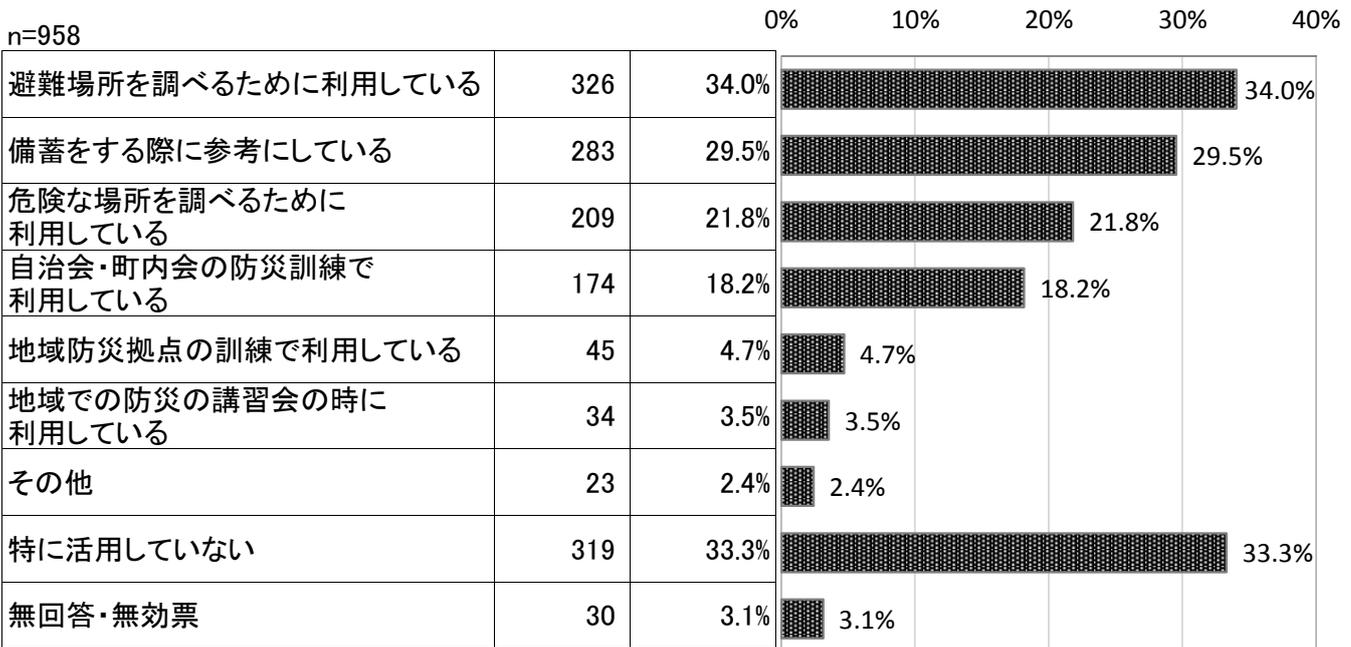


問16 あなたは横浜市が平成25年5月に全世帯に配布した減災パンフレット「わが家の地震対策」を知っていますか。1つ選択



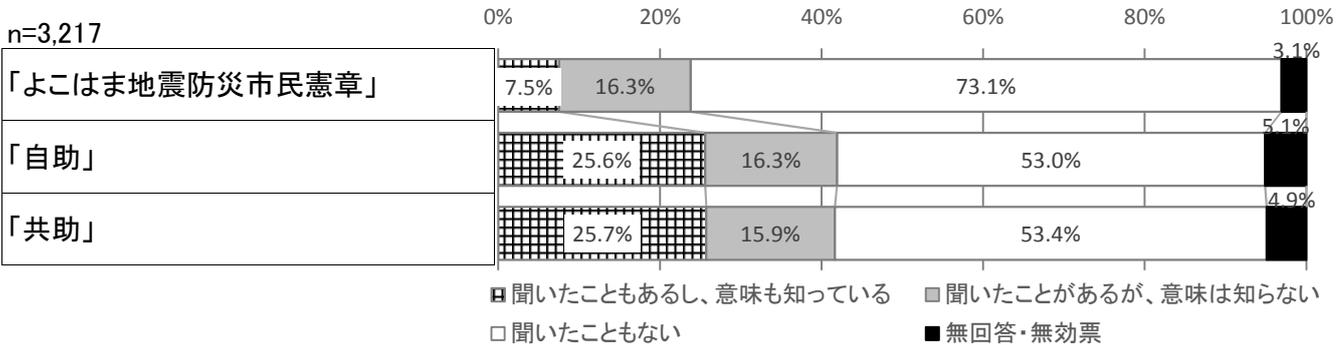
(問16で「知っており、持っている」と答えた方はご回答ください)
 問16-1 「わが家の地震対策」をどのように活用していますか。該当するものすべて選択

n=958



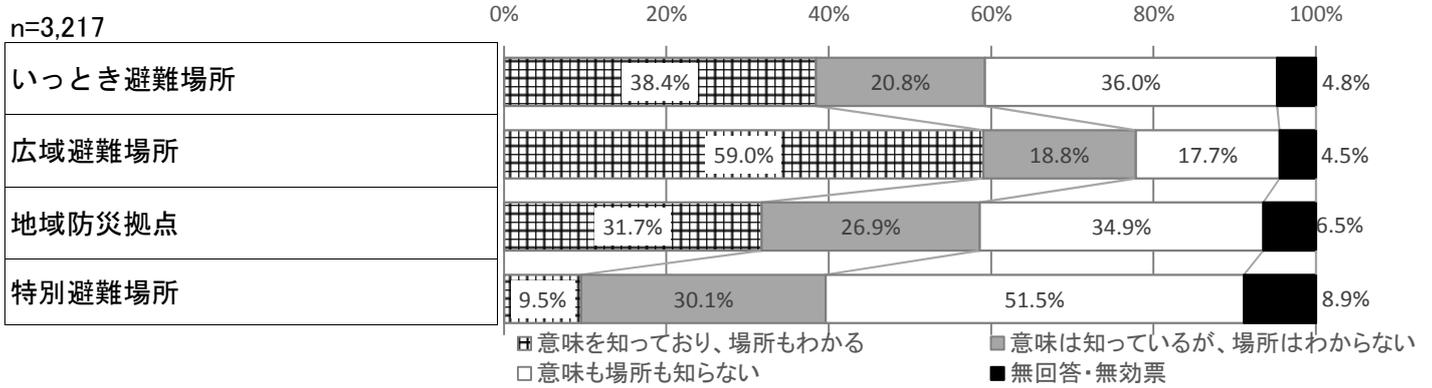
問17 横浜市では、「自助・共助」の大切さを市民の皆様の間を広めていくための「よこはま地震防災市民憲章」を制定しました。あなたは、「よこはま地震防災市民憲章」等について知っていますか。

n=3,217

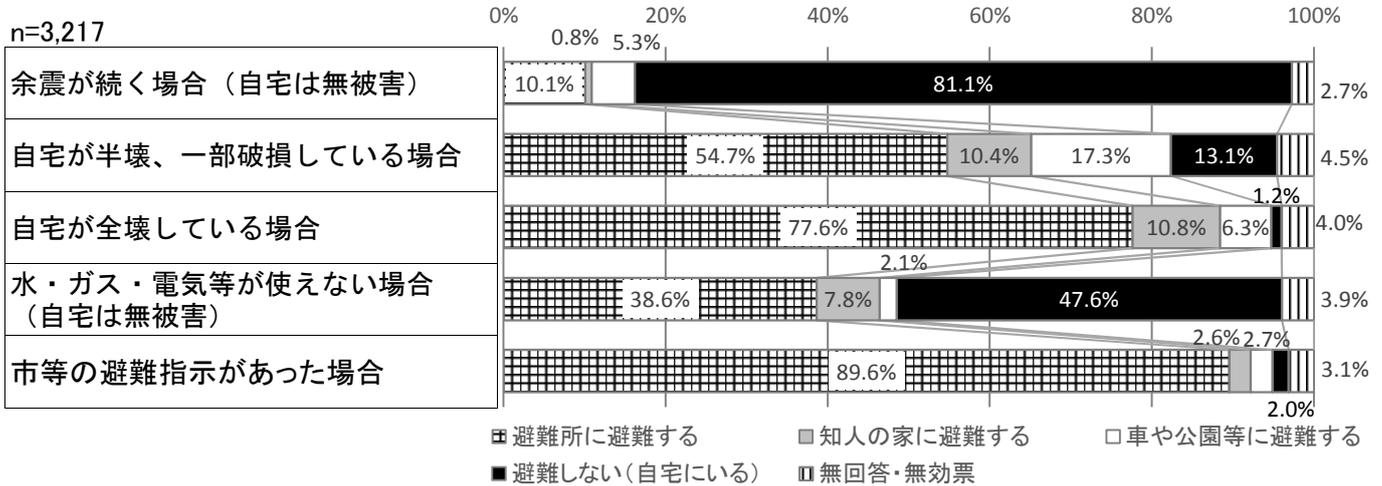


(4) 避難場所等について

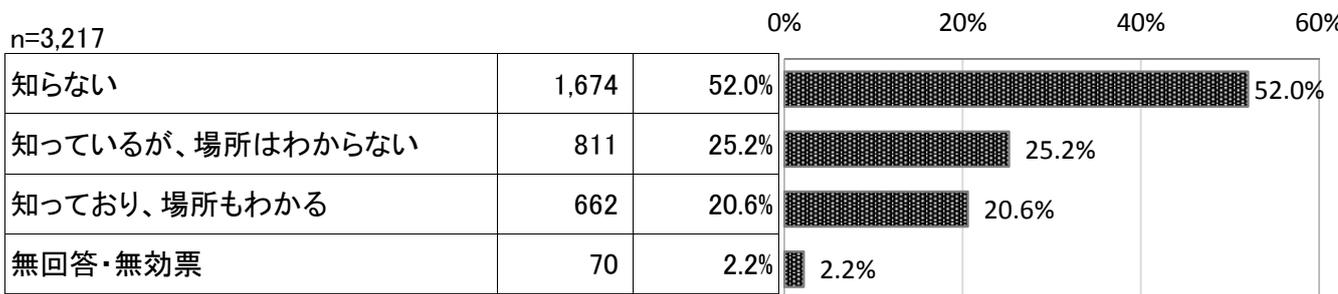
問18 あなたは、次の避難場所について意味を知っていますか。また、お住まいの地域にそれぞれの避難場所がどこにあるか把握していますか。



問19 あなたが自宅にいて、大地震が発生した直後、次のような状況になった場合、あなたはどこに避難しますか。



問20 あなたは、「応急給水拠点」について知っていますか。1つ選択

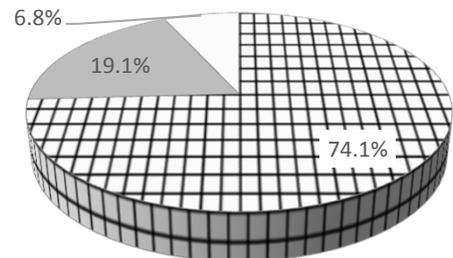


(5) 災害時の医療について

問21 あなたは、災害時にけがや病気になった時に、緊急度や重症度を自分で判断し、適切な医療機関を受診するという仕組みを知っていますか。1つ選択

n=3,217

知らない	2,384	74.1%
知っている	614	19.1%
無回答・無効票	219	6.8%



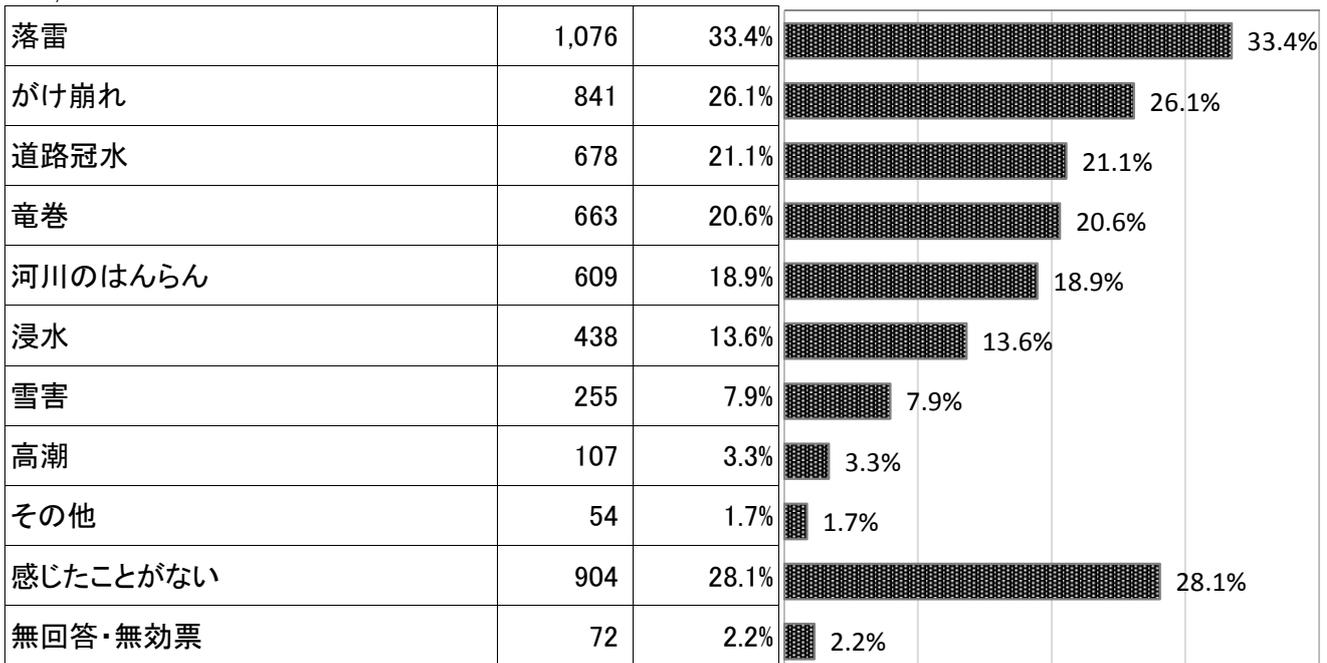
□知らない □知っている □無回答・無効票

2. 風水害対策

(1) あなたが風水害に対して心配していることについて

問22 あなたは自分の住んでいる地域で、次の風水害の不安を感じたことはありますか。3つまで選択

n=3,217



問23 あなたは自分の住んでいる地域で、風水害が発生した場合、特にどのようなことが心配ですか。
5つまで選択

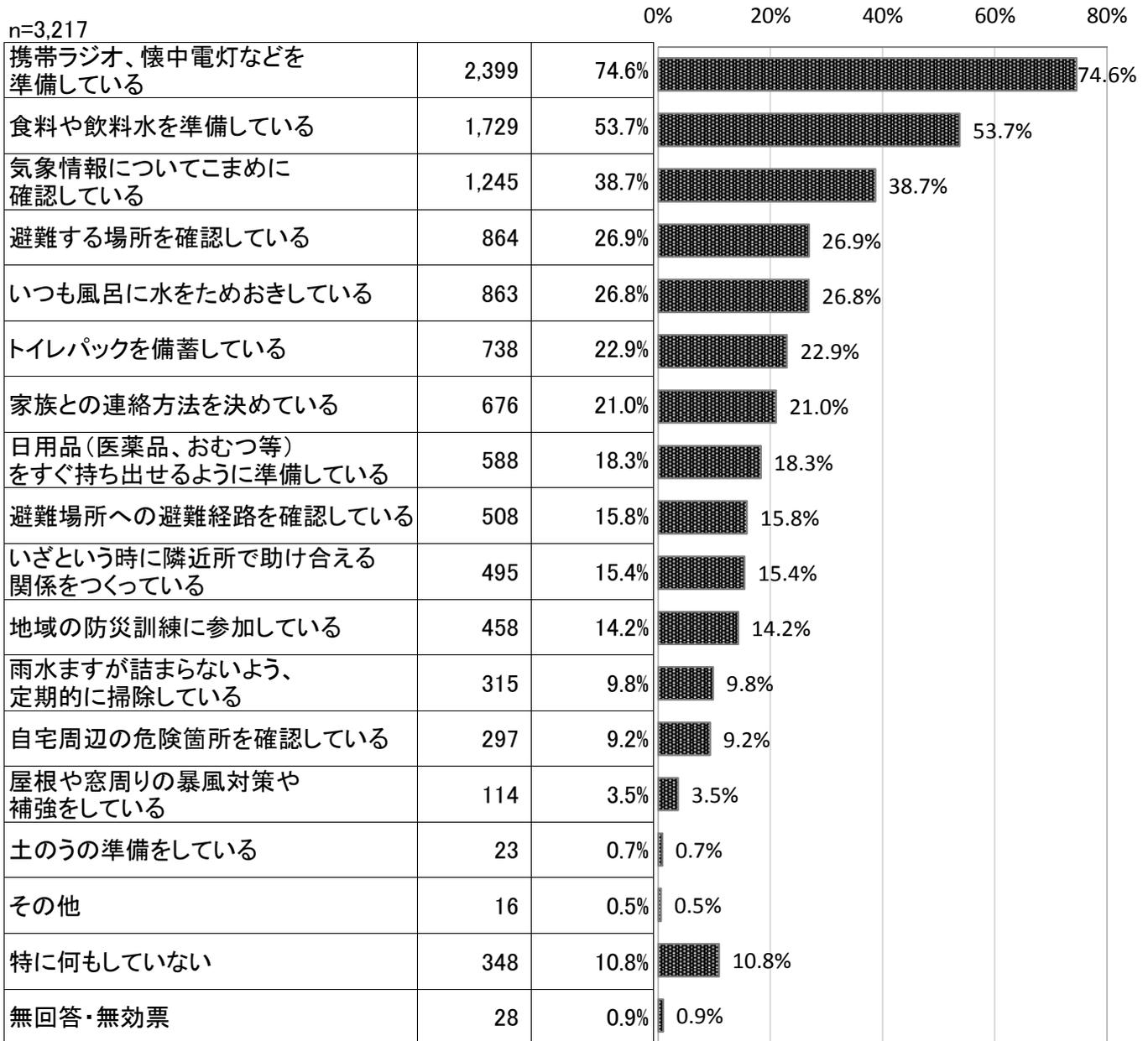
n=3,217

0% 20% 40% 60% 80%



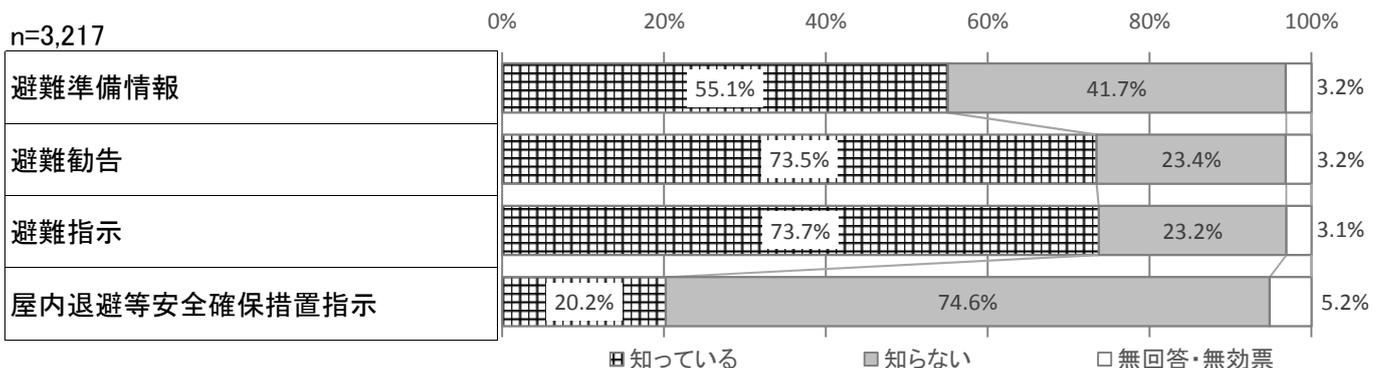
(2) 風水害に対して行っている対策について

問24 あなたやあなたのご家庭では、現在、どのような対策をしていますか。
該当するものすべて選択



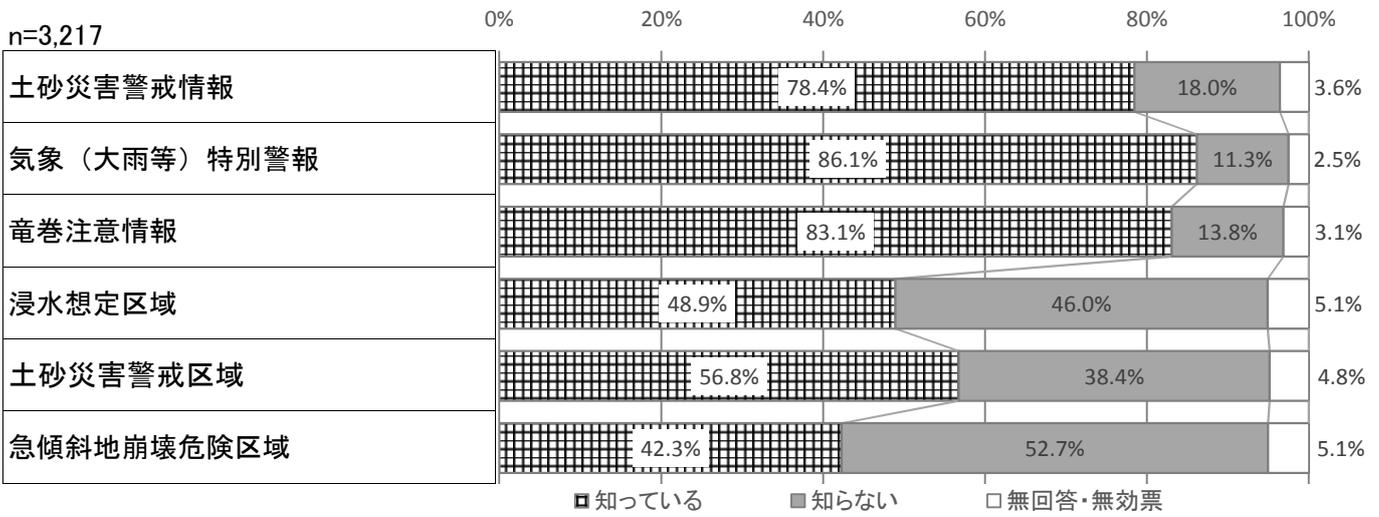
(3) 避難行動について

問25 あなたは、災害の発生が予測されるとき、横浜市が発令する次の情報の意味を知っていますか。



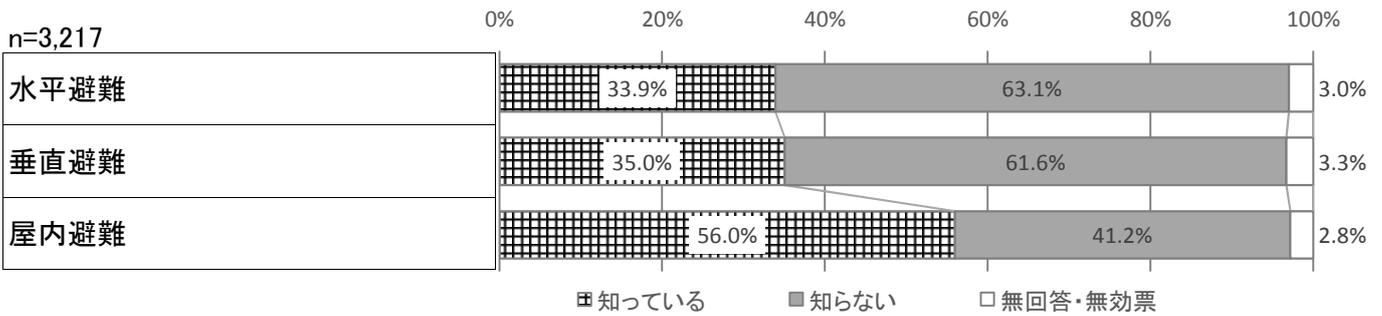
問26 あなたは、気象や防災に関して次の事柄を知っていますか。

n=3,217



問27 あなたは、豪雨が発生した場合の避難行動について次の事柄を知っていますか。

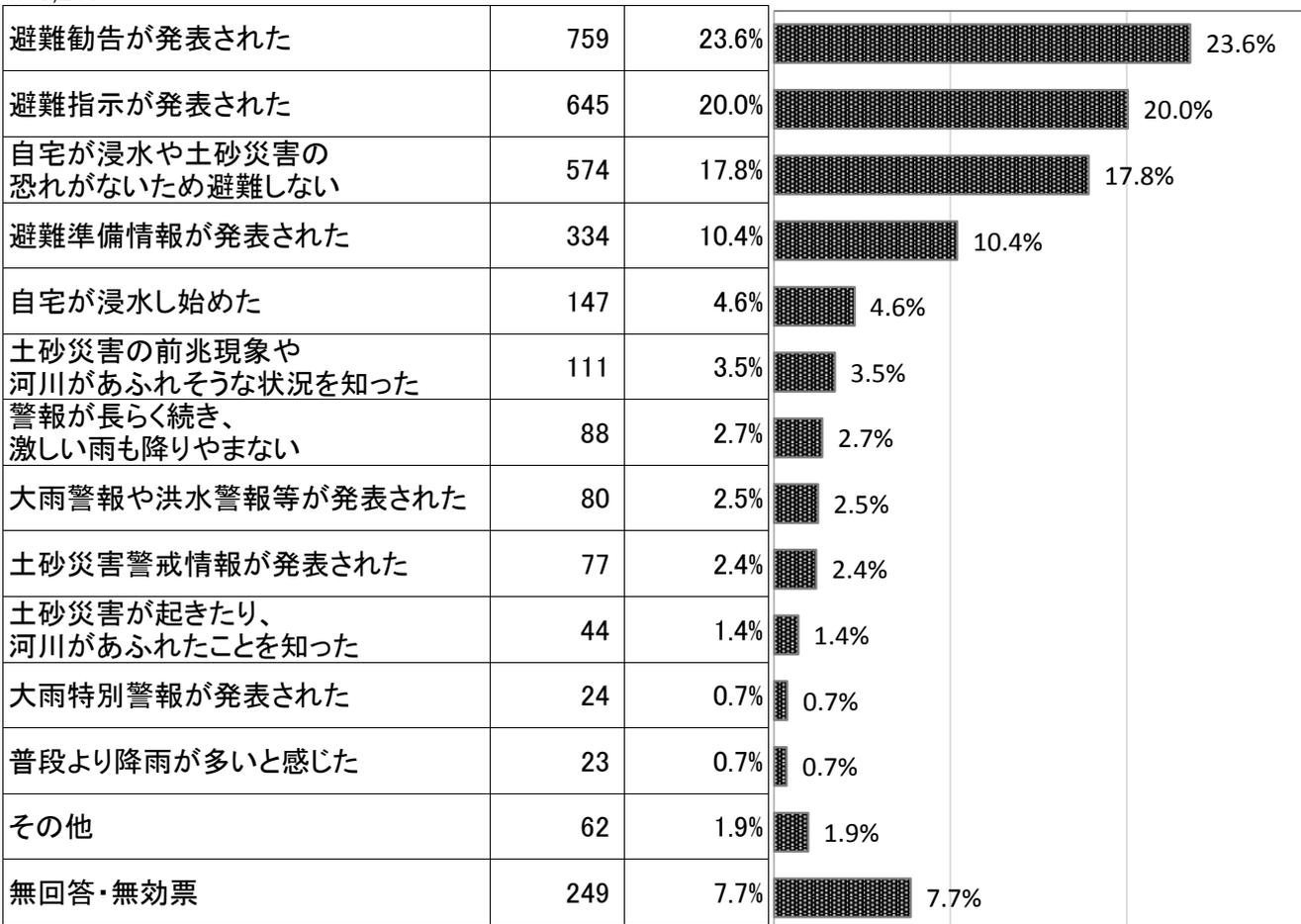
n=3,217



問28 あなたが自宅にいて、豪雨が発生した場合、どのような状況になったら避難行動を開始しますか。
1つ選択

n=3,217

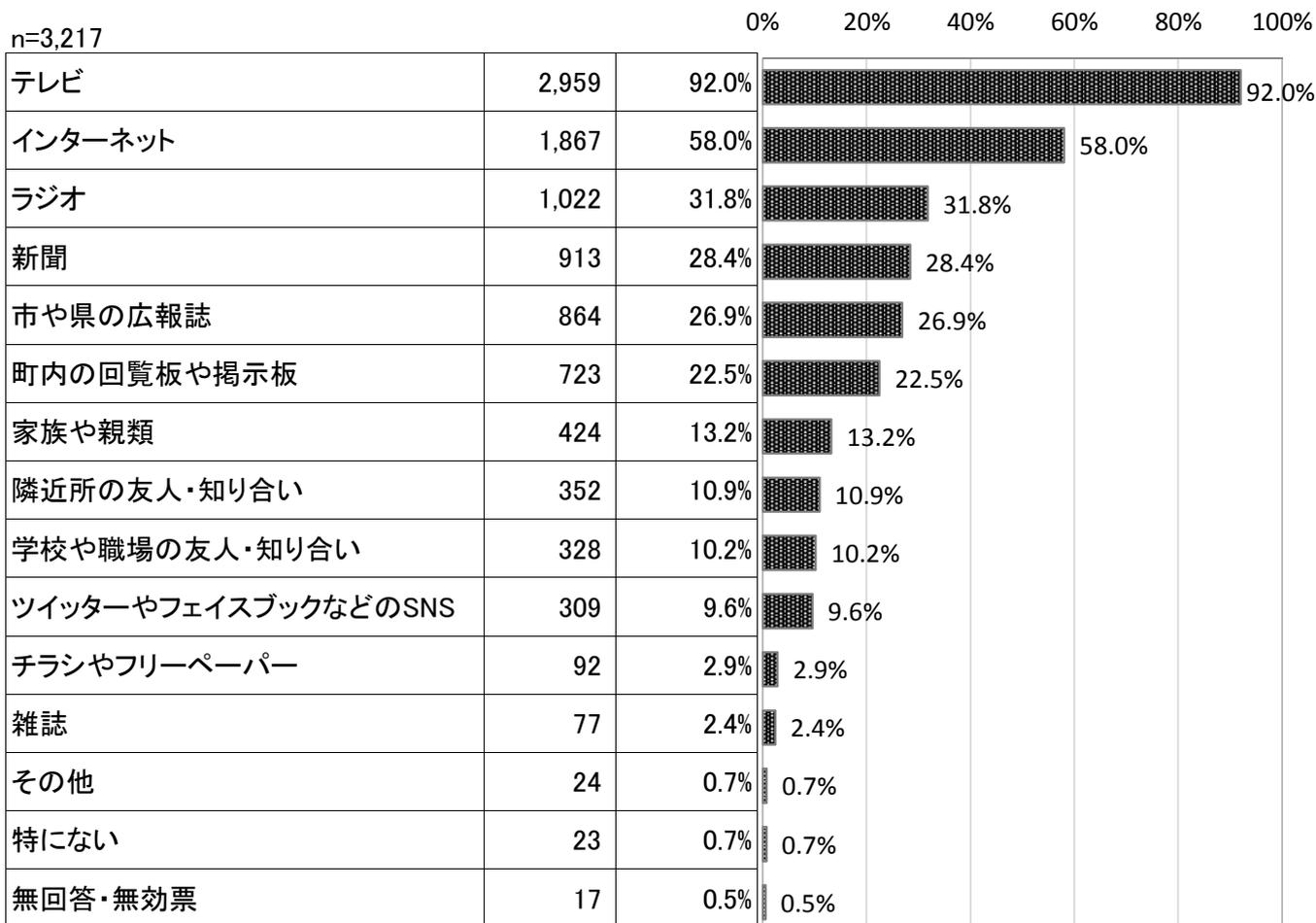
0% 10% 20% 30%



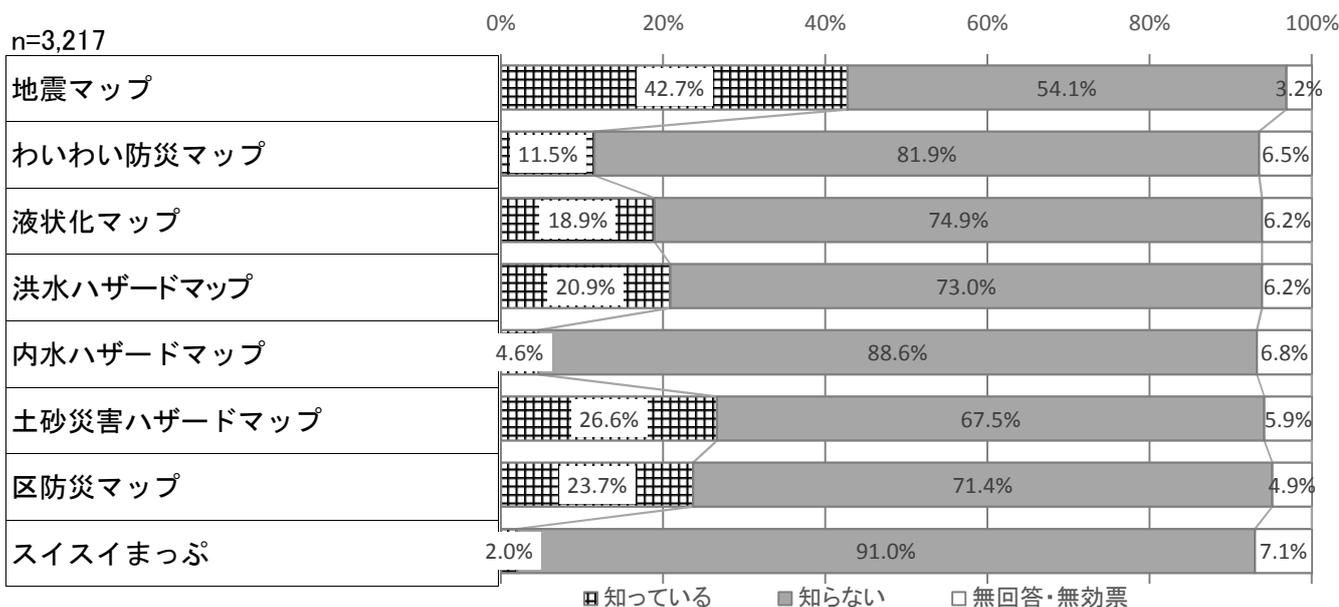
3. 情報収集

(1) 災害に関する情報について

問29 あなたは普段、防災に関する情報を入手したい時に、主に何から入手していますか。
該当するものすべて選択



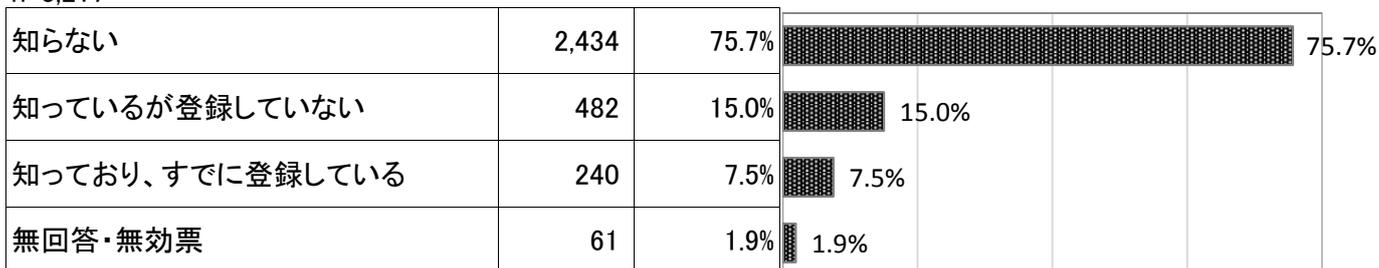
問30 あなたは、横浜市がホームページやリーフレット等により提供している次の防災情報を知っていますか。



問31 あなたは、横浜市が地震や気象情報などの防災情報を登録者にEメールで配信しているサービス「防災情報Eメール」について知っていますか。1つ選択

n=3,217

0% 20% 40% 60% 80%

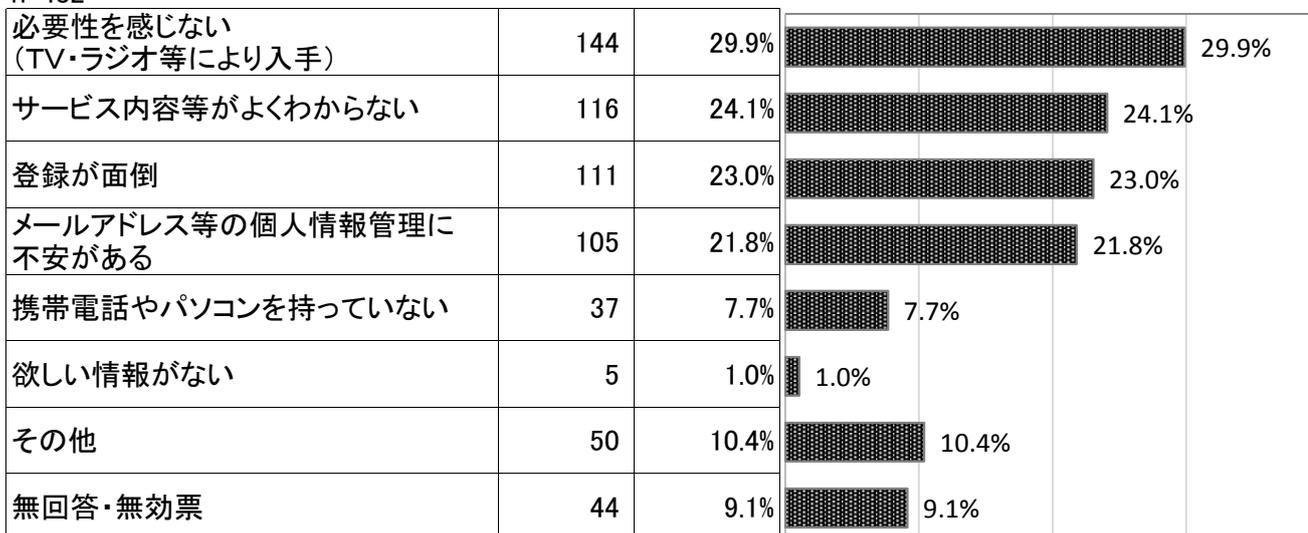


(問31で「知っているが登録していない」と答えた方にご回答ください)

問31-1 あなたが登録していない理由について、次の中からお選びください。該当するものすべて選択

n=482

0% 10% 20% 30% 40%



(2) 危機管理に係るご意見について

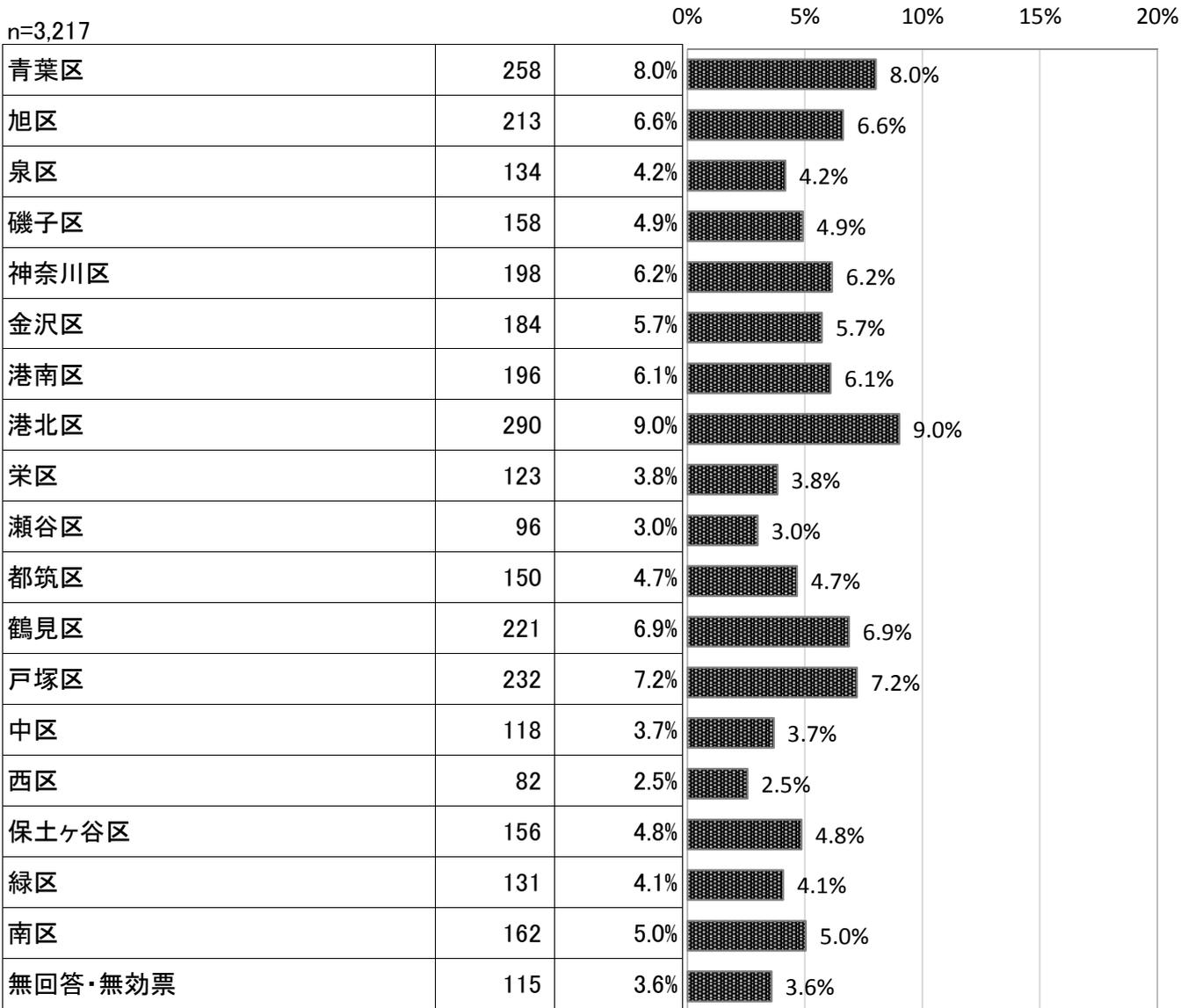
問32 危機管理について、横浜市に力を入れて取り組んでほしいことはどれですか。5つまで選択



4. フェイスシート

(1) あなたご自身のことについて

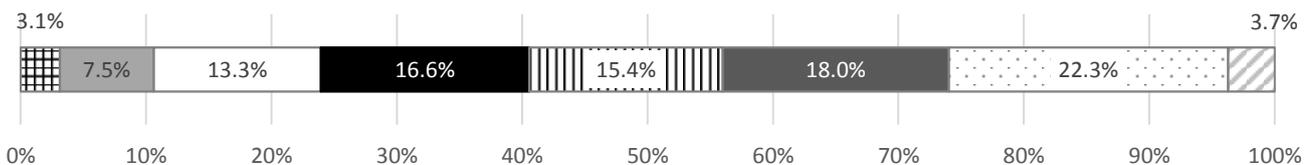
F1 あなたがお住まいになっている区をお選びください。1つ選択



F2 あなたの年代を次の中からお選びください。1つ選択

n=3,217

■ 10歳代 ■ 20歳代 □ 30歳代 ■ 40歳代 ▨ 50歳代 ■ 60歳代 □ 70歳以上 □ 無回答・無効票

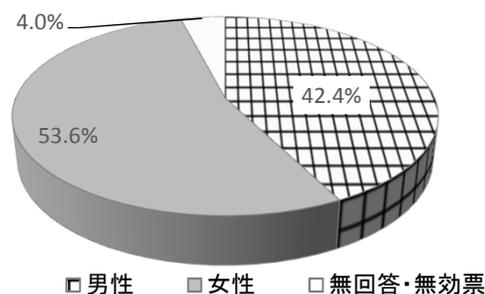


10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答・無効票
100	241	429	535	496	580	717	119
3.1%	7.5%	13.3%	16.6%	15.4%	18.0%	22.3%	3.7%

F 3 あなたの性別をお選びください。1つ選択

n=3,217

男性	1,365	42.4%
女性	1,723	53.6%
無回答・無効票	129	4.0%



F 4 あなたの家族形態は、この中のどれにあたりますか。同居している方のみで当てはまるものをお答えください。1つ選択

n=3,217

			0%	20%	40%	60%	
親と子(2世代)	1,564	48.6%					48.6%
夫婦のみ	839	26.1%					26.1%
ひとり暮らし	329	10.2%					10.2%
祖父母と親と子(3世代)	220	6.8%					6.8%
その他	131	4.1%					4.1%
無回答・無効票	134	4.2%					4.2%

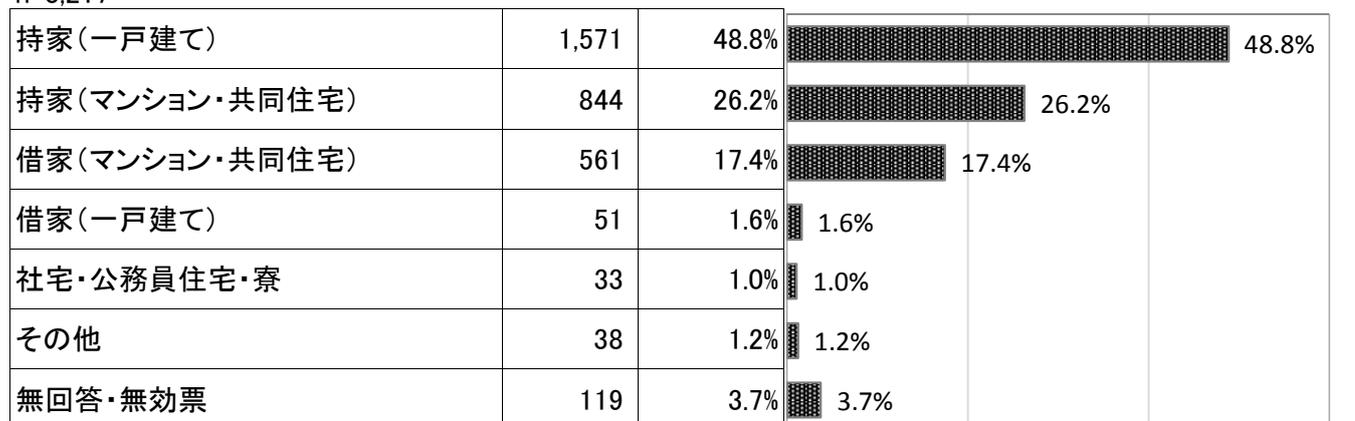
F 5 あなたに同居しているお子さんはいますか。いる場合、お子さんは次のどの段階にあたりますか。該当するものすべて選択

n=3,217

			0%	10%	20%	30%	40%	50%	
同居している子どもはいない	1,290	40.1%							40.1%
中学生以上	901	28.0%							28.0%
小学校入学前	327	10.2%							10.2%
小学校在学中	286	8.9%							8.9%
無回答・無効票	586	18.2%							18.2%

F6 あなたのお住まいの形態を次の中からお選びください。1つ選択

n=3,217



F7 あなたは、自治会、町内会、マンション管理組合などに加入していますか。1つ選択

n=3,217

加入している	2,620	81.4%
加入していない	467	14.5%
無回答・無効票	130	4.0%

